

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成24年6月20日

**【事業年度】** 第16期(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

**【会社名】** 株式会社システム・テクノロジー・アイ

**【英訳名】** System Technology-i Co.,Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 松岡 秀紀

**【本店の所在の場所】** 東京都中央区築地一丁目13番14号

**【電話番号】** 03 5148 0400(代表)

**【事務連絡者氏名】** 常務執行役員管理本部長 内山 富士子

**【最寄りの連絡場所】** 東京都中央区築地一丁目13番14号

**【電話番号】** 03 5148 0400(代表)

**【事務連絡者氏名】** 常務執行役員管理本部長 内山 富士子

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第12期	第13期	第14期	第15期	第16期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
売上高 (千円)	1,099,960	1,571,950	1,324,776	1,071,660	886,762
経常利益又は経常損失( ) (千円)	59,309	116,844	14,653	85,632	31,683
当期純利益又は当期純損失( ) (千円)	39,056	86,015	4,676	81,302	35,029
包括利益 (千円)				81,302	35,029
純資産額 (千円)	1,342,497	1,428,563	1,416,969	1,324,997	1,292,067
総資産額 (千円)	1,578,045	1,641,496	1,598,986	1,425,928	1,430,439
1株当たり純資産額 (円)	100,614.34	107,173.26	106,224.32	99,105.35	96,473.84
1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額( ) (円)	2,927.11	6,449.87	351.05	6,102.61	2,627.59
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)			350.85		
自己資本比率 (%)	85.0	87.0	88.5	92.6	89.9
自己資本利益率 (%)	3.0	6.2	0.3	5.9	2.7
株価収益率 (倍)	24.2	12.7	119.3		
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	97,486	149,392	17,460	5,366	72,727
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	53,546	44,586	120,235	71,703	24,050
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	55,009	750	17,112	12,424	498
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	452,320	556,376	436,488	357,727	405,905
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (名)	53 (38)	60 (22)	58 (20)	54 (11)	51 (11)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第12期は、決算期変更により平成19年7月1日から平成20年3月31日までの9ヶ月間となっております。

3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権を発行しておりますが、第15及び第16期につきましては、1株当たり当期純損失金額のため記載しておりません。第12期、第13期につきましては、希薄化効果を有しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の状況

回次	第12期	第13期	第14期	第15期	第16期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
売上高 (千円)	615,273	909,574	924,417	783,797	614,168
経常利益又は経常損失( ) (千円)	36,977	77,413	42,738	46,362	1,338
当期純利益又は当期純損失( ) (千円)	35,993	75,921	35,637	49,325	397
資本金 (千円)	346,872	346,872	346,872	347,161	347,234
発行済株式総数 (株)	13,343	13,343	13,343	13,351	13,353
純資産額 (千円)	685,891	761,864	781,230	721,235	723,732
総資産額 (千円)	797,846	872,736	914,179	797,720	829,599
1株当たり純資産額 (円)	51,404.57	57,128.24	58,503.33	53,811.88	53,844.51
1株当たり配当額(内、1株当たり 中間配当額) (円)	( )	1,300 ( )	1,000 ( )	( )	( )
1株当たり当期純利益金額又は当期純 損失金額( ) (円)	2,697.54	5,692.99	2,675.08	3,702.40	29.84
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)			2,673.50		
自己資本比率 (%)	86.0	87.2	85.3	89.9	86.5
自己資本利益率 (%)	5.5	10.5	4.6	6.6	0.1
株価収益率 (倍)	26.3	14.4	15.6		1,568.3
配当性向 (%)		22.8	37.4		
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (名)	31 (5)	34 (6)	36 (3)	38 ( )	33 ( )

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権を発行しておりますが、第15期につきましては、1株当たり当期純損失金額のため記載しておりません。また第12期、第13期、第16期につきましては希薄化効果を有しないため記載しておりません。  
3 株価収益率について第15期につきましては、当期純損失のため記載しておりません。  
4 第12期は、決算期変更により平成19年7月1日から平成20年3月31日までの9ヶ月間となっております。

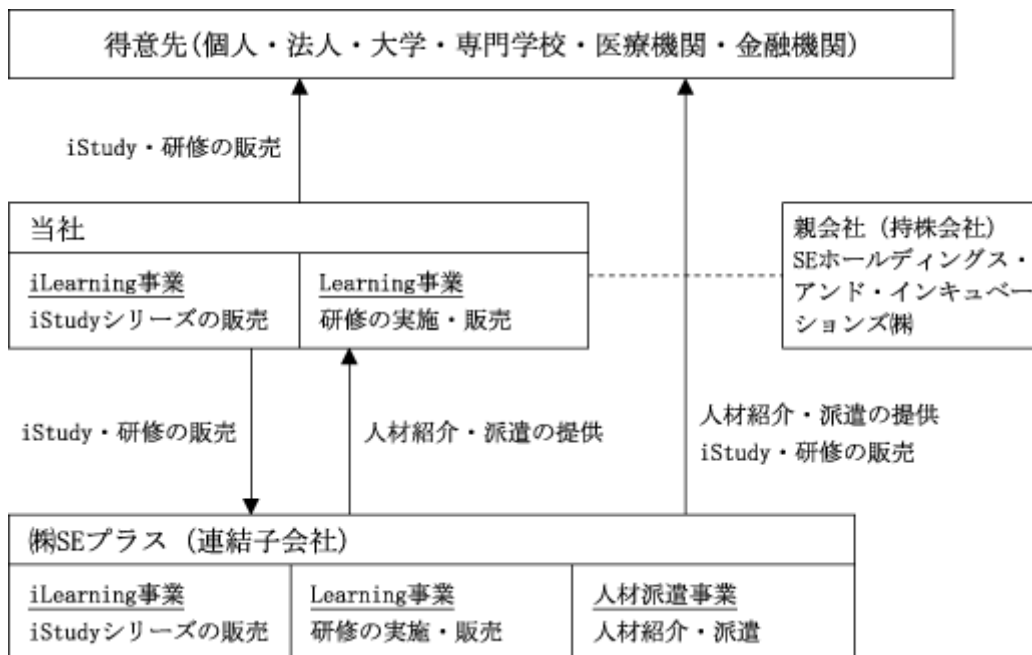
## 2 【沿革】

- 平成9年6月 東京都渋谷区恵比寿において、株式会社オープンシステム研究所とインドKumaran Systems Inc.との合弁契約に基づき、両社の共同出資により、株式会社アイキャンを設立しProducts&Services事業を開始
- 平成10年2月 本店を東京都中央区湊に移転  
社名を株式会社クマランに変更
- 平成10年9月 本店を東京都中央区新富町に移転
- 平成11年5月 Kumaran Systems Inc.と資本関係を解消し、社名を株式会社システム・テクノロジー・アイに変更
- 平成11年8月 ベンダー資格取得のための学習支援ソフトウェア「iStudy」シリーズの販売を開始し、iLearning事業を開始
- 平成12年7月 株式会社オープンシステム研究所と合併し、Learning事業を本格的に開始
- 平成13年3月 本店を東京都中央区銀座に移転  
Oracle・IBM 認定研修会場を東京都中央区銀座に開設
- 平成13年6月 ベンダー資格学習者向け総合Webサイト「@iStudy」のサービスを開始し、iLearning事業を拡大
- 平成13年12月 東京都中央区銀座に銀座事務所を開設
- 平成14年8月 企業向けE-Learning総合ライセンス「iStudy Enterprise License」の販売を開始し、iLearning事業を拡大
- 平成14年12月 東京証券取引所マザーズに株式を上場
- 平成15年7月 E-Learning学習ソフトウェア「iStudy」シリーズ、累計30万ライセンス販売達成
- 平成15年8月 E-Learning総合ライセンス「iStudy Enterprise License」採用企業が100社達成
- 平成16年2月 経済産業省が策定したITSSに基づくスキル診断及び診断結果に基づいた人材育成機能を搭載した、国内初の専用イントラネットサーバ「iStudy Enterprise Server」の販売を開始し、iLearning事業を拡大
- 平成17年4月 スキル診断・学習サーバーのホスティング・サービス基盤に「IBM WebSphere」を採用
- 平成17年6月 本店を東京都中央区築地（現在地）に移転
- 平成18年2月 E-Learning学習ソフトウェア「iStudy」シリーズ、累計55万ライセンス販売達成
- 平成18年12月 株式会社ラーニングウェアより英会話トレーニングコンテンツの事業譲受実施
- 平成19年7月 株式交換により株式会社SEプラスを連結子会社とする
- 平成21年3月 E-Learning学習ソフトウェア「iStudy」シリーズ、累計70万ライセンス販売達成

### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社、親会社及び連結子会社である株式会社SEプラス1社で構成されております。当社の親会社でありますSEホールディングス・アンド・インキュベーションズ株式会社は、純粋持株会社として事業子会社の管理・統括・会社グループ経営企画、会計・人事・総務等管理事務代行、不動産賃貸並びにグループファイナンスを行っております。当社及び連結子会社であります株式会社SEプラスは、ITを中心とした資格取得のための学習ソフトウェア(iStudy(アイスタディー)シリーズ)の製造・販売とインターネットを利用した学習環境を提供する「iLearning(アイラーニング)事業」、日本オラクル株式会社(以下、「日本オラクル」という。)及び日本アイ・ビー・エム株式会社(以下、「日本IBM」という。)の認定研修等を行う「Learning(ラーニング)事業」、IT技術者を中心にした有料職業紹介業、育成/業界特化型人材派遣事業を行う「人材紹介・派遣事業」の3事業を営んでおります。なお、セグメントと同一の区分であります。

事業の系統図は、次のとおりであります。



#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容
(親会社) SEホールディングス・アンド・ インキュベーションズ株式会社 (注)1	東京都新宿区舟町5	1,406,612	事業子会社の管理統括、事務代行、 不動産賃貸、会社グループ経営企 画、グループファイナンス	被所有 53.92	当社より資 金の貸付、 役員の兼任 あり
(連結子会社)  株式会社SEプラス (注)2、3	東京都新宿区舟町1-18	17,500	有料職業紹介事業	100.00	当社より製 品の販売、役 員の兼任あり 当社への業 務委託、人材 派遣あり、役 員の兼任あり

(注)1 有価証券報告書提出会社であります。

2 株式会社SEプラスについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	304,251千円
	経常利益	747千円
	当期純損失	2,078千円
	純資産額	104,602千円
	総資産額	139,434千円

3 株式会社SEプラスは、平成24年5月より事業拠点を当社内(東京都中央区築地1-13-14)に移転しております。

#### 5 【従業員の状況】

##### (1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
iLearning事業	22( )
Learning事業	11( )
人材紹介・派遣事業	18(11)
合計	51(11)

(注)1 従業員数は就業人員であります。

2 従業員数欄の( )内は外数であり、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

##### (2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
33( )	41.3	5.1	5,581

セグメントの名称	従業員数(名)
iLearning事業	22( )
Learning事業	11( )
合計	33( )

(注)1 従業員数は就業人員であります。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3 従業員数欄の( )内は外数であり、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

##### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておきませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響から持ち直しの動きが見られる一方で、円高の長期化や株価低迷などが影響し先行き不透明な状況で推移いたしました。このような状況の中、当社グループでは、新規法人需要を見込むペーパーレスソリューション製品の開発と販売に注力してまいりました。

売上高につきましては、法人向けサーバーソフトウェア「iStudy EnterpriseServer」関連の売上高が計画通り推移したものの、IT技術者の資格取得に利用する受験チケットや一般派遣、業務請負関連の売上高が計画を下回りました。損益につきましては、固定費の削減に努めたことと、利益率の高い法人向けサーバーソフトウェア「iStudy Enterprise Server」関連の案件及び人材紹介案件が計画通り推移したことにより損失は前期に比べ大幅に減少いたしました。

その結果、当連結計年度の業績は、売上高886,762千円（前期比17.3%減）、営業損失29,018千円（前期は、85,047千円の損失）、経常損失31,683千円（前期は、85,632千円の損失）、当期純損失35,029千円（前期は、81,302千円の損失）となりました。

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

#### （iLearning事業）

iLearning事業につきましては、3月までに見込んでいた法人向けサーバーソフトウェア「iStudy Enterprise Server」関連の受注が計画通り推移し前期に比べ売上高は減少したものの損失は減少しました。その結果、売上高458,016千円（前期比20.5%減）、セグメント損失24,115千円（前期は、24,942千円の損失）となりました。

#### （Learning事業）

Learning事業につきましては、上半期は、震災の影響により企業の研修計画の中止や縮小が相次ぎ厳しい状況となりましたが、下半期以降はオラクル定期研修の申込みが増加したことに加え、内定者向け独習ゼミが計画通り推移いたしました。また社内講師のレベルアップに努め初級者コースから上級者コースまで社内講師で対応できる体制を構築し利益の確保に努めました。その結果、売上高290,669千円（前期比19.5%減）、セグメント利益33,836千円（前期は、5,843千円の損失）となりました。

#### （人材紹介・派遣事業）

人材紹介・派遣事業につきましては、雇用悪化の影響により一般派遣、業務請負の売上高は減少いたしました。また、人材紹介関連の売上が好調に推移いたしました。その結果、売上高138,076千円（前期比2.4%増）、セグメント損失5,127千円（前期は、21,365千円の損失）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同期に比べ48,178千円増加し、405,905千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、72,727千円（前年同期5,366千円の収入）となりました。主な増加では、減価償却費26,973千円、のれん償却額32,712千円、たな卸資産の減少18,656千円、前受収益の増加27,636千円等であり、主な減少では、売掛金の増加7,727千円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は24,050千円（前年同期71,703千円の支出）となりました。これは定期預金の預入れ20,054千円、固定資産の取得による支出4,883千円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は498千円（前年同期12,424千円の支出）となりました。これは主にリース債務の支払い及び配当金の支払いによる支出であります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

該当事項はありません。

(2) 仕入実績

当連結会計年度における仕入実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	前年同期比(%)
	金額(千円)	
iLearning事業	67,155	53.6

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 仕入実績の金額は、製品仕入高、商品仕入高、製品ロイヤリティーの金額を合計しております。

(3) 受注実績

該当事項はありません。



(4) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	前年同期比 (%)
	金額(千円)	
iLearning事業	458,016	20.5
Learning事業	290,669	19.5
人材紹介・派遣事業	138,076	2.4
合計	886,762	17.3

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません

2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
日本アイ・ピー・エム㈱	135,432	12.6		

(注) 前連結会計年度で10%以上であった日本アイ・ピー・エム㈱は、当連結会計年度において10%未満となったため記載を省略しております。

3 【対処すべき課題】

(1) 安定した経営基盤の確立

法人向けサーバーソフトウェア「iStudy Enterprise Server」関連の保守契約や、運用サポート等のストックビジネスの契約数増加に努め、グループ売上高に対するストックビジネス割合を50%まで増やしてまいります。安定した収益基盤の確立により新規製品開発や新規事業への投資を実現し、さらなる成長を目指してまいります。

(2) IT技術者の育成

当社グループでは、スキルの高いITエンジニアの需要は景気の動向に左右されることがなく、安定的に需要が見込まれるものと考えております。当社グループが提供しているITエンジニアの資格取得コンテンツや、Oracle研修等を通じてスキルの高いITエンジニアを育成し、「育成型」総合人材教育提供企業としての基盤を確立し、ITエンジニアが活躍できる場を提供してまいります。

(3) ペーパーレスソリューション事業の拡大

当社グループでは、IT業界を中心に事業を行っておりますが、当連結会計年度において販売を開始したペーパーレスソリューション製品である低価格超小型のペーパーレス会議サーバーは、業種、業界を問わず利用していただける製品であり、当社グループの認知度拡大につながる可能性が高いソリューション製品であります。今後、当社グループが成長しつづけるためには、新規業界への認知度向上が不可欠であり、そのために平成24年4月より新たにペーパーレスソリューション営業部を設置いたしました。ペーパーレスソリューション製品を足掛かりに、企業の求める人材育成及び人材確保のニーズに対応した提案ができる場を増やしてまいります。

#### 4 【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、必ずしもそのようなリスク要因に該当しない事項につきましても、投資家の投資判断上、重要であると考えられる事項については、投資家に対する積極的な情報開示の観点から開示しております。なお、当社グループはこれらのリスク発生の可能性を認識した上で、その発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針ですが、投資判断は以下の特別記載事項及び本項以外の記載事項を慎重に検討した上で行われる必要があります。また、以下の記載は投資に関するリスクすべてを網羅しているものではありませんのでご留意ください。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

##### 事業に関するリスクについて

##### 製品の需要について

当社製品の需要は、ITエンジニアの数、資格取得への関心度、及び認定資格のバージョンアップの頻度等に大きく影響されます。当社製品の主な販売対象であるITエンジニアの数が減少した場合、ユーザの資格取得への意欲が衰えた場合、又は何らかの事由によりユーザが当社の提供する製品に価値を見出さなくなる場合は、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、ベンダーがベンダー製品のバージョンアップを行う結果、多くの場合認定資格自体もバージョンアップを行うこととなります。このバージョンアップは、数年に一度の割合で行われる傾向にあります。該当する資格は製品のバージョン毎に認定されるため、製品のバージョンが進む以上、資格は最新のものでないと市場における認知度が低下する可能性があります。このため、ユーザ又は資格保有者は最新の資格を取得することが望まれ、これが当社の製品の需要の増加につながっております。しかしながら、今後、製品のバージョンアップが行われなかった場合、又は製品のバージョンアップが行われても認定資格のバージョンアップが行われなくなった場合は、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### 収益構造について

iLearning事業においては、当社の主力製品であるiStudyシリーズのコンテンツの一部に関して、コンテンツを有している会社との間でライセンス契約の締結を行います。当該ライセンス契約に関しては、基本的にはロイヤリティーは販売実績に応じて支払をすることとなっておりますが、一部はミニマムロイヤリティーを規定しています。したがって当社の予想を大幅に下回る販売実績となった場合は、実際の販売数に対応するロイヤリティー以上のロイヤリティーを支払う義務が発生し、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

Learning事業においては、教室の維持費用として一定の固定費が発生し、また、契約インストラクターへの委託費用として変動費が発生します。売上が当社の計画より下回った場合、当該固定費及び変動費の支払いにより当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### 為替について

当社は海外のコンテンツベンダーから米ドル建てで一定のコンテンツを仕入れているため、為替差損益が発生する可能性があります。今後も、外貨建て取引の割合が増加する可能性もあり、為替差損が発生した場合は、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### システムについて

当社のiLearning事業では、インターネットとPCで利用する環境でサービスを提供しております。インターネットによるサービス提供については、様々なりスクが存在しており、アクセス数の著しい増加や当社内のネットワークの不具合、人為的過失等が原因でシステムダウンが起こる可能性があり、その結果当社のインターネットでのサービスが中断される可能性があります。その他、ウィルス感染やハッ

カーによる被害が生じる可能性や、地震等の天災や火災、停電等の予期できない障害が起こった場合にサービスの提供が不可能になる可能性もあり、このような事態が発生した場合は、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 経済産業省策定のITSS（ITスキル標準）について

当社は、経済産業省が策定したITSSに基づくスキル診断及び診断結果に基づいた人材育成計画の提案を診断者に行っております。このITSSは、各種IT関連サービスの提供に必要とされる能力を明確化・体系化した指標であります。しかしながら、経済産業省の今後の動向により、ITSS自体を廃止してしまった場合は、当社はITSSスキル診断サービスを提供できなくなるため、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社はITSSのスキル診断ツールを使って診断者のスキルの診断を行っており、この診断の結果に基づいて診断者のスキルアップのためのロードマップの策定や、顧客企業の全社的な研修計画又は学習の実施などを行っております。そのため、人的ミスやシステムの不具合により誤った診断結果を判定してしまった場合には診断者や顧客企業からの信頼が損なわれる可能性があり、これにより、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### Learning事業運営のための認定について

当社は、Learning事業を運営するにあたり、資格取得のための研修と資格取得にこだわらないITエンジニアの実践型スキルアップのための研修を、日本オラクル及び日本IBMから認定を受けて行っております。今後、当社が実施した研修のサービスレベルが著しく低下した場合等の理由で、日本オラクル又は日本IBMから認定に関する契約が解除された場合や更新されなかった場合は、これらの研修が実施できなくなり、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### インストラクターの確保とサービスレベルの維持について

当社は、Learning事業を運営するにあたり、日本オラクル、日本IBM、その他研修の対象となる製品のベンダーから認定されたインストラクターが必要となります。インストラクターに関しては、平成24年3月末現在で、7名のうち4名が当社の役員又は従業員であり、残り3名が契約インストラクターですが、この契約インストラクターとの間の契約が解除された場合又は更新されなかった場合は、当社は研修を計画どおり運営ができなくなる可能性があり、その結果当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、顧客企業が当社を選ぶ際の要因の一つには、当社のインストラクターのサービスレベルに対する満足度があると考えております。このため、インストラクターの知識レベルや教育者としての講義レベルの維持向上が必須であると考え、インストラクターに対しては受講者からのアンケートを逐一フィードバックして各人のサービスレベルの向上を図るようになっておりますが、今後何らかの理由でサービスレベルが維持できなくなり受講者からの支持を失った場合、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 競合に関するリスクについて

##### ベンダーとの競合について

当社は、複数のベンダー認定資格の個人及び法人向けの学習支援サービスを提供しております。これに対し、日本オラクルや日本IBM等のベンダーは、主として法人顧客を対象に自社の製品技術に関する研修を、担当地区を振り分ける方法等により、直接又はベンダーから研修実施の認定を受けた教育会社と共に行っております。仮にベンダーが、直接当社が担当している地区に研修等を提供し始めた場合、当社の財政状態及び経営成績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

#### ベンダー以外の他社との競合について

IT関連資格取得のためのソフトウェアを開発・販売している競合他社がありますが、かかる競合他社が同種の製品・サービスを当社より低価格又は高品質で提供した場合、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、学習支援サービスの提供に関しては、当社同様に、「ベンダー認定」や「ベンダー推奨」等のロゴの使用許諾を得ている競合他社がありますが、何らかの理由によりベンダーとの協力関係が維持できなくなり、当社が「ベンダー認定」や「ベンダー推奨」等のロゴの使用許諾を失った場合には、ユーザがかかるロゴの使用許諾を得ている競合他社のサービスを購入する可能性があり、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 事業上重要な取引先への依存度に関するリスクについて

##### ベンダーについて

ベンダー製品の市場シェア占有率や人気度によって当社製品の対象ユーザが変わります。その結果、需要がある資格に関する当社製品の売上比率が高くなります。また、資格試験のバージョンアップの頻度等のベンダーの動向に大きな影響を受け易くなっており、そのため、両社の製品や資格試験の動向次第では、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。また、Learning事業においては、ベンダーとの契約に基づいた認定研修を行っておりますが、仮にベンダーが、直接当社が担当している地区に法人向けの学習支援サービスを提供し始めた場合、特定の認定教育会社に専属的に学習支援サービスの提供を許諾した場合、又はその他何らかの理由により契約が継続されなかった場合、当社の財政状態及び経営成績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

##### 日本オラクルとの関係について

当社は、Oracle関連製品の売上げに依存している面があるため、市場におけるOracle関連製品のシェアが低くなった場合は、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。また、当社は、日本オラクルとの関係について、当社代表取締役社長の松岡秀紀が平成7年8月から平成10年2月までの間日本オラクルに在籍していたこともあり、同氏の人的ネットワークに依存している面もあります。

##### 販売パートナーについて

当社製品の提供にあたっては直接販売のほか販売パートナーを通じて間接販売を行っております。当社が直接カバーできない潜在顧客に対しては、これらの販売パートナーを通じての販売は重要であるため、今後販売パートナーとの提携がなくなった場合は、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### コンテンツパートナーについて

当社は、Oracle製品のコンテンツは、社内で制作しておりますが、それ以外の製品のコンテンツは外部のコンテンツパートナー（国内・海外）と提携して仕入をしております。SelfTest Software, Inc.、MeasureUp, Inc.、株式会社富士通ラーニングメディア等のコンテンツパートナーは、当社がコンテンツを充実させていくにあたって重要な存在であります。したがって、これらのコンテンツパートナーからの供給がなくなった場合には、当該コンテンツの製品化や販売の継続が困難になるため、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### 監修・技術パートナーについて

当社は、大半のコンテンツを外部の専門知識のある監修・技術パートナー（教育事業会社等）へ監修を委託しております。当社製品の品質を維持向上させるためには、この技術・監修パートナーの専門性が重要であります。技術・監修パートナーとの提携がなくなれば、当該コンテンツの製品の品質

が低下することにより、当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 当社グループの事業体制に関するリスクについて

##### 小規模組織であることについて

当社は、平成24年3月末現在、従業員33名と（内、契約社員1名）小規模組織であることから業務が属人的であるために、人材の流出時に業務に支障をきたす可能性があります。今後、当社の成長のためには優秀な技術者等の人材が必要であります。適時十分に確保できない場合、当社の財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

##### ストックオプションの行使による株式の希薄化について

当社グループは、取締役及び従業員等の業績向上に対する士気を高めるためにストックオプションを付与しております。このストックオプションの行使により、発行済株式が増加し、1株当たりの株式価値が希薄化する可能性があります。また、この株式価値の希薄化が株価形成に影響を与える可能性があります。

#### 個人情報の保護に関するリスクについて

当社グループは、当社グループのサービスを利用する顧客に個人情報の登録を求めており、当社グループのデータベースサーバには、氏名、住所、電話番号、メールアドレス等の個人情報がデータとして蓄積されております。これらの情報については、当社グループにおいて守秘義務があり、また、データへアクセスできる人数の制限及び外部侵入防止のためのセキュリティ等の採用により当社の管理部門及びシステム部門を中心に漏洩防止を図っております。しかし、社内管理体制の問題又は社外からの侵入等によりこれらのデータが外部に漏洩した場合、当社グループへの損害賠償請求や信用低下等によって当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 技術革新への対応に関するリスクについて

当社グループは、iLearning事業において、現在インターネット及びPCを利用した事業を行っております。インターネット及びPC以外の技術又は媒体が、当社グループの対象とするユーザの主な利用手段になった場合でかつ当社グループのiLearning事業がそれらの技術又は媒体に対応できなかった場合、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### のれんの償却について

平成19年7月1日に株式交換契約により株式会社SEプラスを完全子会社としたことによって連結上発生するのれんについては、20年の均等償却を行っております。今後当社及び子会社の業績悪化などにより、取得時の見積もりに基づく期間よりも早く消滅すると見込まれる状況が発生した場合、のれんの残高について相当の減額を行う必要が生じることがあり、連結の業績及び財政状態に重大な影響を及ぼす可能性があります。

#### 子会社に関するリスクについて

当社は、平成19年7月1日に株式会社SEプラスを完全子会社といたしました。今後同社が業績不振に陥った場合は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 内部統制について

当社グループは、業務の適正を確保するために必要な内部統制システムの構築に努めておりますが、内部統制が適切に構築・維持することができず、または有効に機能しない場合は、当社グループの業務

に影響を及ぼす可能性があります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

提出会社

イ コンテンツ提供を受けている相手先との契約

相手方の名称	国名	契約品目	契約内容	契約期間
SelfTest Software, Inc.	米国	パッケージソフト等のコンテンツ	ライセンスの付与	平成11年11月15日から平成13年11月14日まで以降2年毎自動更新
MeasureUp, Inc.	米国	パッケージソフト等のコンテンツ	ライセンスの付与	平成13年6月29日から平成14年6月28日まで以降1年毎自動更新

ロ 定期研修を受託している相手先との契約

相手方の名称	国名	契約品目	契約内容	契約期間
日本オラクル株式会社	日本	同社指定のプログラム	研修コース実施の委託	平成11年5月1日から平成12年4月30日まで以降1年毎自動更新
日本アイ・ピー・エム株式会社	日本	同社指定のプログラム	研修コース実施の委託	平成13年1月19日から平成15年1月18日まで以降2年毎自動更新

## 6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たりまして、会計上の見積りについて、過去の実績等を勘案し合理的な見積り金額を判断しておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、異なる可能性があります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

#### 貸倒引当金

貸倒引当金は、債権の貸倒れによる損失に備え、回収不能見込額を計上しております。このため、将来、取引先等の債務者の財政状態が変化した場合等には、貸倒引当金の必要額も変動する可能性があります。

#### たな卸資産の評価

たな卸資産は、販売見込数と実際の販売数に応じて在庫を保有しておりますが、販売見込数と実販売数に大きく差異が生じたり、ベンダー主催の試験制度が突然変更になったりした場合には、評価損及び除却損を計上する可能性があります。

#### のれんの償却

個別決算上計上しているのれんについては、5年、連結上発生するのれんについては、20年による定額法を採用し償却しております。今後当社グループの業績が悪化した場合は、減損処理を行う可能性があります。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

売上高の分析

売上高は、886,762千円となりました。その主な要因については、「1 業績等の概要」をご参照ください。

売上原価、販売費及び一般管理費、営業利益の分析

売上原価は、485,090千円となりました。主な費用及び金額は、賃金94,587千円、研修請負業務手数料50,992千円、派遣社員給与45,930千円等であります。販売費及び一般管理費は、430,689千円となりました。主な費用及び金額は、給料手当及び賞与144,695千円、役員報酬64,270千円、賃借料35,715千円、のれん償却額32,712千円等であります。これらの結果、営業損失は29,018千円となりました。

営業外損益、特別損益、当期純利益の分析

営業外収益は、3,311千円となりました。主な収益及び金額は、iStudy Cloud UnitLisence (アイスタディ クラウド ユニットライセンス)の無効ユニットの振替1,212千円、受取利息2,008千円によるものであります。営業外費用は、5,976千円となりました。主な費用及び金額は、証券事務取扱手数料5,003千円であります。特別損失は、4,603千円となりました。主な費用は、連結子会社との組織統合関連費用4,438千円によるものであります。これらにより、当期純損失は35,029千円となりました。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

「第2 事業の状況 4 事業等のリスク」に記載のとおりです。

(4) 経営戦略の現状と見通し

次期の見通しにつきましては、個人消費の回復や復興需要の強まりがあるものの電気料金の値上げや原油高騰などの景気後退要因により景況感は重い状況が予想されます。

当社グループでは、5月に完全子会社である株式会社SEプラスの事業拠点を当社内に移転いたしました。これにより、大幅な固定経費の削減を図るとともに、営業力、マーケティング力の一部を融合しグループの体制強化を目指してまいります。

(5) 資本の財源及び資金の流動性について

「第2 事業の状況 1 業績等の概要」に記載のとおりであります。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

「第2 事業の状況 3 対処すべき課題」に記載のとおりであります。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度に実施した設備投資の総額は、8,251千円であり、その主なものは、コンピュータ及びサーバー、ソフトウェアの購入であります。

#### 2 【主要な設備の状況】

平成24年3月31日現在における主要な設備及び従業員の配置状況は次のとおりであります。

##### (1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (外、平均臨時雇 用者数) (名)
			建物	工具、器具 及び備品	リース 資産	ソフトウエ ア	合計	
本社 (東京都中央区)	iLearning事業、 Learning事業	事務所 研修会場	6,346	12,255	3,380	22,499	44,481	33( )

- (注) 1 金額には消費税等は含まれておりません。  
2 事務所・研修会場はすべて賃借であります。当該設備は、本社移転に伴い平成17年6月より賃貸契約を結んでおり、平成24年3月期における賃借料は、51,350千円であります。  
3 本社(東京都中央区)には、都内サーバールームの資産を含めております。平成24年3月期における賃借料は、9,324千円であります。

##### (2) 連結子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (外、平均臨時雇 用者数) (名)
				建物	工具、器具 及び備品	ソフトウェア	合計	
株式会社SEプラス	本社 (東京都新宿区)	人材紹介・派遣事業	事務所	253	1,658		1,911	18(11)

- (注) 1 金額には消費税等は含まれておりません。  
2 本社はすべて賃借であります。平成24年3月期における賃借料は、8,088千円であります。

#### 3 【設備の新設、除却等の計画】

##### (1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

##### (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。



## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,416
計	25,416

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年6月20日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	13,353	13,353	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株制度を採用しておりませ ん。
計	13,353	13,353		

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成24年6月1日から、この有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された新株式数は、含まれておりません。

## (2) 【新株予約権等の状況】

平成13年改正旧商法第280条ノ20及び平成13年改正旧商法第280条ノ21の規定に基づく新株予約権

(平成17年9月22日 定時株主総会)

	当事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	38	38
新株予約権のうち自己新株予約権の数		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	38	38
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり 381,250円	1株当たり 381,250円
新株予約権の行使期間	自平成19年10月18日 至平成24年9月30日	自平成19年10月18日 至平成24年9月30日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 381,250円 資本組入額 190,625円	発行価格 381,250円 資本組入額 190,625円
新株予約権の行使の条件	(1) 権利行使時においても当社または当社の関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。ただし、当社または当社の関係会社の取締役もしくは監査役が任期満了により退任した場合には、この限りではない。 (2) 権利行使時においても当社と講師業務に関する請負契約が存続していることを要する。 (3) 上記のほかの細目については当社と付与対象者との間で締結する「新株予約権割当契約書」の定めるところとする。	(1) 権利行使時においても当社または当社の関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。ただし、当社または当社の関係会社の取締役もしくは監査役が任期満了により退任した場合には、この限りではない。 (2) 権利行使時においても当社と講師業務に関する請負契約が存続していることを要する。 (3) 上記のほかの細目については当社と付与対象者との間で締結する「新株予約権割当契約書」の定めるところとする。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡、質入れその他一切の処分ができないものとする。	新株予約権の譲渡、質入れその他一切の処分ができないものとする。
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項		

(注) 1 本新株予約権1個当たりの新株予約権の行使時の払込金額(以下「払込金額」という。)は、当該時点における目的株式数1株当たりの払込金額(以下「1株当たり払込金額」という。)に目的株式数を乗じた金額とし、当初381,250円(以下「当初払込金額」という。)としております。ただし、いかなる場合においても、払込金額は当初払込金額を上回らないこととなっております。

2 当社が株式分割または株式併合を行う場合、当社は次の算式により1株当たり払込金額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数を切り上げることとしております。

$$\text{調整後1株当たり払込金額} = \text{調整前1株当たり払込金額} \times \frac{1}{\text{分割または併合の比率}}$$

3 付与された新株予約権62個のうち、当事業年度末現在24個が従業員の退職により減少しております。

## 会社法の規定に基づく新株予約権

(平成20年9月29日 取締役会)

	当事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	81	81
新株予約権のうち自己新株予約権の数		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	81	81
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり 49,444円	1株当たり 49,444円
新株予約権の行使期間	自平成22年10月1日 至平成27年7月31日	自平成22年10月1日 至平成27年7月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 49,444円 資本組入額 24,722円	発行価格 49,444円 資本組入額 24,722円
新株予約権の行使の条件	<p>(1) 新株予約権の割当を受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社または当社子会社の取締役、監査役及び従業員の地位を喪失した場合は新株予約権を行使することができない。ただし、対象の取締役、監査役、従業員が当社または当社子会社の取締役、監査役、従業員のいずれかの地位を得た場合はこの限りではない。</p> <p>(2) 新株予約権者が、新株予約権発行時において契約インストラクターである場合、当該新株予約権者は、新株予約権の行使時において、当社との間の講師業務に関する請負契約が存続していなければならない。</p> <p>(3) 新株予約権の相続はできないものとする。</p> <p>(4) 新株予約権の質入れは認めないものとする。</p> <p>(5) その他の条件については、取締役会決議に基づき、新株予約権者と当社との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>	<p>(1) 新株予約権の割当を受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社または当社子会社の取締役、監査役及び従業員の地位を喪失した場合は新株予約権を行使することができない。ただし、対象の取締役、監査役、従業員が当社または当社子会社の取締役、監査役、従業員のいずれかの地位を得た場合はこの限りではない。</p> <p>(2) 新株予約権者が、新株予約権発行時において契約インストラクターである場合、当該新株予約権者は、新株予約権の行使時において、当社との間の講師業務に関する請負契約が存続していなければならない。</p> <p>(3) 新株予約権の相続はできないものとする。</p> <p>(4) 新株予約権の質入れは認めないものとする。</p> <p>(5) その他の条件については、取締役会決議に基づき、新株予約権者と当社との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、取締役会の承認を要する。	新株予約権を譲渡するときは、取締役会の承認を要する。
代用払込みにに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 3	(注) 3

(注) 1 本新株予約権1個当たりの新株予約権の行使時の払込金額(以下「払込金額」という。)は、当該時点における目的株式数1株当たりの払込金額(以下「1株当たり払込金額」という。)に目的株式数を乗じた金額とし、当初49,444円(以下「当初払込金額」という。)としております。ただし、いかなる場合においても、払込金額は当初払込金額を上回らないこととなっております。

2 当社が株式分割または株式併合を行う場合、当社は次の算式により1株当たり払込金額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数を切り上げることとしております。

$$\text{調整後1株当たり払込金額} = \text{調整前1株当たり払込金額} \times \frac{1}{\text{分割または併合の比率}}$$

3 組織再編における新株予約権の交付及びその条件

当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生の直前において残存

する新株予約権(以下「残存新株予約権」という。)を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という。)の新株予約権を交付することとしております。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとしております。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとしております。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

残存新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとしております。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式としております。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、新株予約権の目的である株式は当社普通株式とし、新株予約権1個当たりの目的である株式は1株としております。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、上記「新株予約権の行使時の払込金額」に定められる行使価額を組織再編行為の条件等を勘案の上、調整して得られる再編成後払込代金に上記「新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数」に従って決定される当該新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数を乗じて得られる金額としております。

新株予約権を行使することができる期間

上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編成行為の効力発生日のいずれか遅い日から、上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとしております。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

上記「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」に準じて決定することとしております。

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとしております。

新株予約権の取得条項

i 当社が消滅会社となる合併契約書承認の議案が株主総会で承認されたとき、当社が完全子会社となる株式交換契約書承認の議案または株式移転の議案について株主総会で承認され、取締役会決議により本新株予約権の取得を必要と認めて一定の日を定め、当該日が到来したときは、当該日に、当社は新株予約権を無償で取得することができることとしております。

当社は、新株予約権者が上記「新株予約権の行使の条件」(1)および(2)による新株予約権の行使の条件に該当しなくなったときは、当該新株予約権を無償で取得することができることとしております。

新株予約権者が、新株予約権の全部または一部について破棄もしくは返還の意思を示した場合は、当社は当該新株予約権を無償で取得することができることとしております。

その他の新株予約権の行使の条件

上記「新株予約権の行使の条件」に準じて決定することとしております。

4 付与された新株予約権120個のうち、当事業年度末現在39個(うち、退職による失効29個、権利行使10個)が減少しております

(平成22年6月17日 取締役会)

	当事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	176	176
新株予約権のうち自己新株予約権の数		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	176	176
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり 55,073円	1株当たり 55,073円
新株予約権の行使期間	自平成24年7月16日 至平成29年7月15日	自平成24年7月16日 至平成29年7月15日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 55,073円 資本組入額 22,536円	発行価格 55,073円 資本組入額 22,536円
新株予約権の行使の条件	<p>(1) 新株予約権の割当を受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社または当社子会社の取締役、監査役及び従業員の地位を喪失した場合は新株予約権を行使することができない。ただし、対象の取締役、監査役、従業員が当社または当社子会社の取締役、監査役、従業員のいずれかの地位を得た場合はこの限りではない。</p> <p>(2) 新株予約権者が、新株予約権発行時において契約インストラクターである場合、当該新株予約権者は、新株予約権の行使時において、当社との間の講師業務に関する請負契約が存続していなければならない。</p> <p>(3) 新株予約権の相続はできないものとする。</p> <p>(4) 新株予約権の質入れは認めないものとする。</p> <p>(5) その他の条件については、取締役会決議に基づき、新株予約権者と当社との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>	<p>(1) 新株予約権の割当を受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社または当社子会社の取締役、監査役及び従業員の地位を喪失した場合は新株予約権を行使することができない。ただし、対象の取締役、監査役、従業員が当社または当社子会社の取締役、監査役、従業員のいずれかの地位を得た場合はこの限りではない。</p> <p>(2) 新株予約権者が、新株予約権発行時において契約インストラクターである場合、当該新株予約権者は、新株予約権の行使時において、当社との間の講師業務に関する請負契約が存続していなければならない。</p> <p>(3) 新株予約権の相続はできないものとする。</p> <p>(4) 新株予約権の質入れは認めないものとする。</p> <p>(5) その他の条件については、取締役会決議に基づき、新株予約権者と当社との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するときは、取締役会の承認を要する。	新株予約権を譲渡するときは、取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)3	(注)3

(注) 1 本新株予約権1個当たりの新株予約権の行使時の払込金額(以下「払込金額」という。)は、当該時点における目的株式数1株当たりの払込金額(以下「1株当たり払込金額」という。)に目的株式数を乗じた金額とし、当初49,444円(以下「当初払込金額」という。)としております。ただし、いかなる場合においても、払込金額は当初払込金額を上回らないこととなっております。

- 2 当社が株式分割または株式併合を行う場合、当社は次の算式により1株当たり払込金額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数を切り上げることとしております。

$$\text{調整後1株当たり払込金額} = \text{調整前1株当たり払込金額} \times \frac{1}{\text{分割または併合の比率}}$$

- 3 組織再編における新株予約権の交付及びその条件

当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生の直前において残存する新株予約権(以下「残存新株予約権」という。)を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という。)の新株予約権を交付することとしております。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとしております。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとしております。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

残存新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとしております。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式としております。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、新株予約権の目的である株式は当社普通株式とし、新株予約権1個当たりの目的である株式は1株としております。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、上記「新株予約権の行使時の払込金額」に定められる行使価額を組織再編行為の条件等を勘案の上、調整して得られる再編成後払込代金に上記「新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数」に従って決定される当該新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数を乗じて得られる金額としております。

新株予約権を行使することができる期間

上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編成行為の効力発生日のいずれか遅い日から、上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとしております。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

上記「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」に準じて決定することとしております。

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとしております。

新株予約権の取得条項

- i 当社が消滅会社となる合併契約書承認の議案が株主総会で承認されたとき、当社が完全子会社となる株式交換契約書承認の議案または株式移転の議案について株主総会で承認され、取締役会決議により本新株予約権の取得を必要と認めて一定の日を定め、当該日が到来したときは、当該日に、当社は新株予約権を無償で取得することができることとしております。

当社は、新株予約権者が上記「新株予約権の行使の条件」(1)および(2)による新株予約権の行使の条件に該当しなくなったときは、当該新株予約権を無償で取得することができることとしております。

新株予約権者が、新株予約権の全部または一部について破棄もしくは返還の意思を示した場合は、当社は当該新株予約権を無償で取得することができることとしております。

その他の新株予約権の行使の条件

上記「新株予約権の行使の条件」に準じて決定することとしております。

- 4 付与された新株予約権200個のうち、当事業年度末現在24個が従業員の退職により減少しております。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成19年7月1日 (注)1	6,500	13,343		346,872	33,250	329,359
平成21年2月15日 (注)2		13,343		346,872	241,359	88,000
平成22年4月1日～平 成23年3月31日 (注)3	8	13,351	289	347,161	289	88,289
平成23年4月1日～平 成24年3月31日 (注)4	2	13,353	72	347,234	72	88,361

(注) 1 株式交換実施に伴う新株式の発行

発行価格 33,250千円

資本組入額 - 千円

交換比率 当社株式13株：株式会社SEプラス株式1株

2 会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を減少し、その他資本剰余金へ振り替えたものであります。

3 新株予約権の権利行使

新株予約権の権利行使による発行株式数、行使価格及び資本組入額は次のとおりです。

銘柄	発行株式数(株)	行使価格(円)	資本組入額(円)
第5回新株予約権	8	49,444	24,722

4 新株予約権の権利行使

新株予約権の権利行使による発行株式数、行使価格及び資本組入額は次のとおりです。

銘柄	発行株式数(株)	行使価格(円)	資本組入額(円)
第5回新株予約権	2	49,444	24,722

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況								単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		2	9	4	5	3	961	984	
所有株式数 (株)		47	348	7,392	27	17	5,522	13,353	
所有株式数 の割合(%)		0.35	2.61	55.36	0.20	0.13	41.35	100.00	

(注) 自己株式21株は、「個人その他」に含まれております。

## (7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
SEホールディングス・アンド ・インキュベーションズ株式 会社	東京都新宿区舟町5	7,188	53.83
松岡 秀紀	東京都江東区	1,462	10.95
松岡 優子	東京都江東区	450	3.37
山本 真理	東京都中央区	250	1.87
株式会社ブイ・シー・エヌ	東京都渋谷区恵比寿西1丁目8-1	200	1.50
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6-1	199	1.49
鈴木 正人	東京都青梅市	159	1.19
廣田 大介	神奈川県川崎市	100	0.75
新澤 ミツエ	大阪府泉大津市	92	0.69
荒引 博明	東京都江東区	86	0.64
計		10,186	76.28

## (8) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 21		
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,332	13,332	
単元未満株式			
発行済株式総数	13,353		
総株主の議決権		13,332	



## 【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社システム・テクノロジー・アイ	東京都中央区築地 1丁目13-14	21		21	0.16
計		21		21	0.16

## (9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、新株予約権方式によるストックオプション制度を採用しております。下記内容につきましては、平成13年改正旧商法第280条ノ20及び平成13年改正旧商法第280条ノ21の規定に基づき決議されたものであります。当該制度の内容は、次のとおりであります。

(平成17年9月22日 定時株主総会)

決議年月日	平成17年9月22日
付与対象者の区分及び人数(名)	取締役 4 監査役 3 従業員 27 契約インストラクター 2
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の 交付に関する事項	

当社は、新株予約権方式によるストック・オプション制度を採用しております。下記内容につきましては会社法に基づき、決議されたものであります。当該制度の内容は、次のとおりであります。

(平成20年9月29日 取締役会)

決議年月日	平成20年9月29日
付与対象者の区分及び人数(名)	取締役 6 監査役 3 従業員 28 子会社従業員 16 契約インストラクター 4
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の 交付に関する事項	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。

(平成22年6月17日 取締役会)

決議年月日	平成22年6月17日
付与対象者の区分	取締役 6 監査役 4 従業員 35 子会社従業員 19 契約インストラクター 3
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

### 【株式の種類等】普通株式

#### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

#### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

#### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式	21		21	

### 3 【配当政策】

株主に対する配当につきましては、経営基盤の安定と将来の事業展開に必要な教室設備の増強、ネットワーク機器の拡充及びセキュリティ強化等に活用するために内部留保の充実を勘案した上で、配当を行うことを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当と期末配当の年2回を基本方針としております。これらの剰余金の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

当期につきましては、基本方針を勘案した上無配当とさせていただきます。

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第12期	第13期	第14期	第15期	第16期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	144,000	101,000	83,500	92,100	69,000
最低(円)	66,200	25,100	35,400	34,500	37,700

(注) 1 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおける株価を記載しております。

2 第12期は、決算期変更により平成19年7月1日から平成20年3月31日までの9ヶ月間となっております。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高(円)	45,300	43,000	42,300	41,700	50,700	53,700
最低(円)	39,450	39,000	39,050	38,050	37,700	42,000

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおける株価を記載しております。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	製品開発本 部長	松岡 秀紀	昭和41年6月22日生	昭和60年4月 株式会社セイノー情報サービス入 社 平成2年8月 株式会社アシスト入社 平成7年2月 日本オラクル株式会社入社 平成10年3月 当社代表取締役社長（現任） 平成14年10月 技術本部長 平成15年4月 営業本部長 平成17年7月 営業本部長兼iES推進部部長 平成18年7月 iES営業本部長兼iES営業本部iES 推進部部長 平成19年7月 製品事業部長 平成20年4月 製品事業部長兼ビジネスソリュー ション営業本部長 平成21年4月 技術本部長兼ビジネスソリュー ション営業本部長 平成22年4月 製品開発本部長（現任） 平成22年8月 ミラクル・リナックス(株)社外取締 役（現任）	(注)1	1,462
取締役 副社長	技術本部長	松岡 優子	昭和39年7月17日生	昭和60年3月 東京重機工業株式会社(現 JUKI株 式会社)入社 平成62年1月 株式会社アシスト入社 平成3年1月 株式会社オープンシステム研究所 設立同社代表取締役社長 平成9年6月 当社取締役 平成12年7月 当社取締役副社長（現任）兼 Learning事業部長 平成17年7月 Learning推進部部長 平成18年7月 Learning営業本部長 平成19年7月 Learning事業部長 平成21年10月 (株)SEプラス取締役（現任） 平成22年4月 iStudy&CloudLearning事業部長 平成23年3月 技術本部長（現任）	(注) 1、4	450
取締役 副社長	営業統括本 部長	村田 斉	昭和41年12月1日生	平成元年4月 (株)リクルート入社 平成6年7月 (株)プレステージ設立同社取締役 平成12年1月 (株)翔泳社入社 平成17年9月 (株)翔泳社プラス（現：(株)SEプラ ス）取締役 平成19年6月 (株)翔泳社プラス（現：(株)SEプラ ス）代表取締役（現任） 平成19年6月 当社取締役 平成24年4月 当社取締役副社長（現任）兼 営 業統括本部長（現任）	(注)1	
取締役 (非常勤)		廣田 大介	昭和33年4月15日生	昭和58年9月 公認会計士海東時男会計事務所入 所 昭和61年7月 廣田税務会計事務所開設（現任） 平成9年6月 当社監査役 平成12年4月 当社取締役（現任）	(注) 1、5	100

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役 (非常勤)		佐々木 幹夫	昭和34年10月28日生	昭和60年4月 昭和63年6月  平成6年6月 平成11年6月 平成13年11月 平成14年9月 平成16年4月 平成17年9月 平成18年10月 平成18年10月 平成18年10月 平成19年6月 平成22年7月	㈱平沢コミュニケ・シヨonz入社 ㈱翔泳社(現:SEホールディングス・アンド・インキュベーションズ)入社 同社取締役 同社取締役副社長(現任) ㈱翔泳社人材センター(現:SEプラス)代表取締役社長 ㈱クラスエイ取締役 ㈱イージーユーズ取締役 ㈱リパティハウス(現:INCユナイテッド)取締役 ㈱翔泳社代表取締役社長(現任) (注) ㈱ゲームグース取締役(現任) SEモバイル・アンド・オンライン ㈱監査役(現任) 当社取締役(現任) ㈱翔泳社アカデミー代表取締役(現任)	(注)1	
監査役 (常勤)		船岡 弘 忠	昭和20年8月6日生	昭和46年4月 平成13年6月 平成18年4月 平成20年10月 平成21年6月	日本アイ・ビー・エム株式会社入社 株式会社シーアイエス代表取締役社長 サプライバンク株式会社(現:株式会社イグアス)代表取締役社長 JBCCホールディングス株式会社顧問 当社監査役(現任)	(注)2、 6	
監査役 (非常勤)		生野 勝	昭和13年3月19日生	昭和35年4月 昭和38年7月 平成2年5月 平成5年6月 平成14年6月 平成16年10月 平成17年9月	通商産業省(現経済産業省)広島通商産業局入局 日本アイ・ビー・エム株式会社入社 日本物流開発株式会社取締役(出向) 同社代表取締役 当社監査役 当社顧問 当社監査役(現任)	(注)2	
監査役 (非常勤)		関 洋 佑	昭和16年12月23日生	昭和40年4月 平成18年1月 平成18年10月 平成19年3月 平成20年6月	日本アイ・ビー・エム株式会社入社 日本アイビーエム・ビジネスソリューション株式会社(囑託) 株式会社インテリジェント・スクエア(囑託) 囑託終了 当社監査役(現任)	(注) 3、6	
計							2,012

- (注) 1 平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 2 平成21年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 3 平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 取締役副社長である松岡優子は、代表取締役社長である松岡秀紀の配偶者であります。
- 5 廣田大介氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
- 6 船岡弘忠氏、関洋佑氏は会社法第2条16号に定める社外監査役であります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 1. 企業統治の体制

企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由

当社における企業統治の体制は、経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制及び株主重視の公正な経営システムを構築し維持していくことを基本として、監査役制度を採用し、社外監査役を含む監査役会が取締役会を牽制する体制としております。また平成16年7月より執行役員制度を導入し業務執行の迅速化、効率化に対応した体制を整えております。そして、内部統制会議において業務の効率化を図る改善に取り組み、さらに内部監査により、これらの運営状況を監視しております。なお、当社の各機関の内容及び内部統制システム整備状況は次のとおりであります。

#### 取締役会

取締役会は5名の取締役で構成され、少人数で効率的な監督体制を整えております。定時取締役会は、月1回開催しており、監査役3名も出席し取締役の職務執行を監督しております。なお、重要案件が生じた場合には、随時臨時取締役会を開催しております。

#### 経営会議

取締役により月1回経営会議を開催しており経営の迅速化・競争力維持に努めております。また監査役も出席し取締役の職務執行を監督しております。

#### 内部統制会議

代表取締役、各部門長及び内部統制担当により月1回内部統制会議を開催しており、業務の報告、改善事項等を検討し業務の適正化に努めております。

#### 監査役会

当社監査役会は、社外監査役2名を含む全3名で構成され、監査役会を定期的で開催しております。

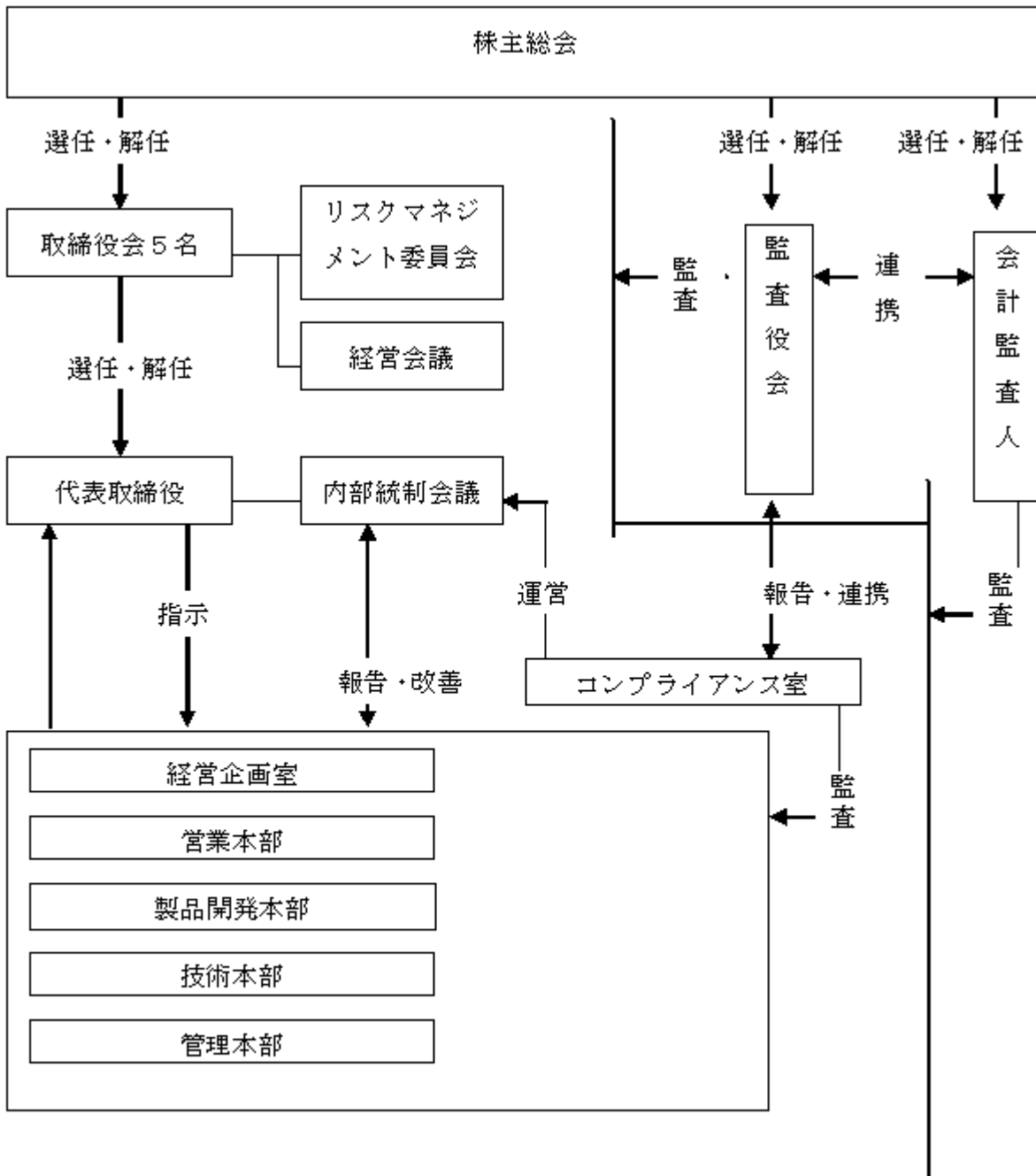
#### 内部監査

当社は、会社の業務及び財産の実態を監査し、経営の合理化、迅速化、及び資産の保全に資することを目的としてコンプライアンス室を中心に構成されたメンバーによる内部監査を実施しております。

#### 会計監査人

会計監査は、新日本有限責任監査法人と監査契約を締結しております。

当社のコーポレート・ガバナンス体制を図式化すると次のとおりとなります。



## 内部統制システムの整備の状況及びリスク管理体制の整備の状況

### <1> 取締役・使用人の職務執行の法令・定款への適合を確保する体制

- イ 当社は、当社の企業活動が社会への貢献を維持継続させていくために、コンプライアンスの徹底が必要不可欠であると考えております。
- ロ 取締役ならびに使用人に法令・定款の遵守を徹底するために、社長直轄のもとコンプライアンス規程およびコンプライアンス・マニュアルを作成するとともに学習機会を定期的に設けて周知徹底を行っております。
- ハ 当社は定期的に実施する内部監査により業務状況を把握し、業務の実態が法令、定款及び社内諸規程に則して適正かつ合理的に行われているかを監査し、資産の保全に資することを目的として改善活動に努めております。
- ニ 当社は、コンプライアンス体制の維持・確立を目的として、コンプライアンスに関する違反行為の疑義に気がついた時には通報相談を受付ける通報相談窓口を設けております。会社は、通報内容を秘守し、通報者に対して不利益な扱いを行っておりません。
- ホ 当社は、内部統制システムを適切に整備し、内部統制会議を開催するなど定期的かつ必要に応じた見直しにより改善を図り、もって効率的で適法な企業体制を構築しております。

### <2> 取締役の職務の執行に係わる情報の保存及び管理に関する体制

当社は、法令・社内規定に基づき文書等の保存を行います。文書の保管については文書管理規程、取締役会をはじめとする重要な会議の意思決定に係る記録は取締役会規程、というように各規程に基づき定められた期間保存します。また必要に応じて取締役、監査役等が閲覧、謄写可能な状態にて管理しております。

### <3> 損失の危険の管理規程その他の体制

当社は、当社の事業展開上様々な危険に対して対処すべく、社長を委員長とした、「リスクマネジメント委員会」を設け、リスク管理規程に基づき、各部門長が参加し、定期的に対応策の見直しを行います。また、「リスクマネジメント委員会」により、リスク管理に関する体制、方針及び施策等を総合的に検討し取締役会に答申を行っております。

### <4> 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- イ 取締役会は5名の取締役で構成され、取締役会付議・取締役会規則に則り会社の業務執行を決定しております。
- ロ 当社は、定例の取締役会を毎月1回開催し、重要事項や重要顧客案件の報告、相談を行い業務執行状況の掌握、監督を行います。また、取締役および各部門長による経営会議を必要に応じて開催し、執行計画の進捗管理等の推進を行っており、4半期に1回、全社員を招聘した報告会を開き、業績目標に対する進捗を共有しております。

### <5> 会社並びに親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- イ 当社の監査役は、子会社の内部統制システムが適切に整備されているかに留意し、必要に応じて法令等に定める権限を行使し、子会社の調査等を行っております。
- ロ 当社の内部監査部門は、子会社の内部統制システムが適切に整備されているかに留意し、子会社の内部統制及び監査の結果を監視し、検証しております。
- ハ 親会社等と当社及び子会社、関連会社との間における不適切な取引や、不正な会計処理防止のため、適宜、情



報交換を行うことにより、当社及び子会社等の独立性を十分に確保する体制を構築しております。

<6> 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役が、その職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合は、当該使用人の任命を行っております。

<7> 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役は、その職務を補助すべき使用人の任免及び人事考課については、監査役の意見に基づき実施しております。

<8> 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制

イ 監査役は、取締役会、経営会議、4半期毎に実施する営業戦略会議に出席し、重要な報告を受けております。

ロ 稟議案件の査閲、半期毎実施の棚卸立会等により業務執行状況を掌握しております。

ハ 取締役は、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見したときには直ちに監査役に報告しております。

<9> その他監査役が実効的に行われることを確保するための体制

代表取締役は、監査役との相互認識と信頼関係を深めるように努め、監査役監査の環境整備に必要な措置をとっております。

<10> 反社会的勢力排除に向けた取り組み

イ 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

反社会的勢力とは、取引関係を含めて、一切の関係をもちません。また、反社会的勢力による不当要求は拒絶します。反社会的勢力による不当な介入を許すことなく、断固として排除する姿勢で取り組み、これらの被害の予防に必要な措置を講じております。

ロ 反社会的勢力排除に向けた整備状況

）反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方を実現するため、社内体制の整備、従業員の安全確保、外部専門機関との連携等の取り組みを行っております。

）相手方が反社会的勢力であるかどうかについて、常に、通常必要と思われる注意を払うとともに、反社会的勢力とは知らずに何らかの関係を有してしまった場合には、相手方が反社会的勢力であると判明した時点や反社会的勢力であるとの疑いが生じた時点で、速やかに関係を解消することとしております。

）反社会的勢力による不当要求がなされた場合には、担当者や担当部署だけに任せずに、代表取締役、取締役等の経営陣以下、組織全体として対応します。その際には、あらゆる民事上刑事上の法的対抗手段を講じることとしております。

## 2. 内部監査及び監査役監査

### イ 内部監査

当社は、会社の業務及び財産の実態を監査し、経営の合理化、迅速化、及び資産の保全に資することを目的としてコンプライアンス室を中心に構成されたメンバーによる内部監査を実施しており、監査において改善すべき事項がある場合にはその指導を実施し、監査結果は代表取締役及び取締役会に報告しております。

ロ 監査役監査

監査役会は、当社監査役会は、社外監査役2名を含む全3名で構成され、取締役会への出席の他、稟議案件の査閲、期末棚卸の立会等 取締役の職務を十分に監査できる体制となっております。

ハ 内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携ならびにこれらの監査と内部統制担当の関係

監査役は、内部監査部門と意見交換を行い内部監査部門が実施した内部監査の進捗の報告を受けて是正状況を監査しております。また、会計監査実施結果、是正状況につき会計監査人と意見交換を行っております。内部監査結果及び是正状況については、監査役会に報告をし意見交換を行っており連携を図っております。

3. 社外取締役及び社外監査役

当連結会年度においては、社外取締役が1名、社外監査役が2名おり、経営の意思決定機能と業務執行を管理監督する機能をもつ取締役会に対し監視機能を強化しております。当社は監査役3名中2名の社外監査役により監査が実施されることにより、外部からの経営監視が機能する体制としており、現状の体制を採用しております。

イ 当社との人的関係、資本的关系、及び取引関係等その他利害関係

社外取締役 廣田大介氏、社外監査役 船岡弘忠氏及び関洋佑氏は、いずれも当社との人的関係、資本的关系、及び取引関係等その他利害関係はありません。

ロ 当社の企業統治において果たす機能及び役割

客観的中立的な経営監視機能を発揮することにより、適切な牽制、監視体制を十分に確保され、当社の企業統治の有効性を高める機能及び役割を担っております。

ハ 社外取締役又は、社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針の内容

当社は、社外取締役又は社外監査役の選任に当たり、独立性に関する基準又は方針は設けておりません。

ニ 選任状況に関する当社の考え方

高い独立性及び専門的な知見に基づき、客観的中立的な経営監視機能を発揮することにより、適切な牽制、監視体制を十分に確保されており、その期待される機能及び役割を十二分に果たし、当社の企業統治の有効性に大きく寄与しております。

ホ 内部監査、監査役監査、及び会計監査の相互連携ならびにこれらの監査と内部統制担当の関係

内部監査部門と意見交換を行い内部監査部門が実施した内部監査の進捗の報告を受けて是正状況を監査しております。また会計監査実施結果、是正状況につき会計監査人と意見交換を行っております。内部統制担当とは、意見交換を行うことにより相互連携を図ることができる体制となっております。

#### 4. 役員報酬

##### イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)		対象となる役員の 員数 (名)
		基本報酬	ストックオプション	
取締役 (社外取締役を除く。)	39,059	38,390	669	5
監査役 (社外監査役を除く。)	906	840	66	1
社外役員	7,934	7,650	284	4

##### ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

##### ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

##### ニ 役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社は役員の報酬等の額又は、その算定方法の決定に関する方針は定めておりません。なお、取締役会の報酬限度額は、年額120,000千円、監査役の報酬限度額は、年額20,000千円と平成12年9月20日開催の第4回定時株主総会で決定しております。

#### 5. 株式の保有状況

該当事項はありません。

#### 6. 会計監査の状況

会計監査は、新日本有限責任監査法人と監査契約を締結し、監査を実施しております。

当社の会計監査業務を執行した公認会計士：定留尚之、唐澤正幸

所属する監査法人名：新日本有限責任監査法人

当社の監査業務に係る補助者：公認会計士8名、その他8名

#### 7. その他

##### イ 取締役及び監査役の定数

当社の取締役は7名以内、監査役は5名以内とする旨定款に定めております。

##### ロ 取締役及び監査役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は、累積投票によらない旨を定款に定めております。

##### ハ 取締役会で決議することができる株主総会決議事項

###### 中間配当

当社は、株主への安定的な利益還元を実施するため、会社法第454条第5項に基づき、取締役会の決議により、毎年9月30日の株主名簿に記載又は記録された株主若しくは登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

###### 自己株の取得

当社は、機動的に資本政策を遂行することを可能にするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議により、市場取引等による自己の株式の取得を行うことができる旨を定款に定めております。

###### 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項の規定による株主総会の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う旨を定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)
提出会社	20,000		18,500	
連結子会社				
計	20,000		18,500	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

監査人に対する報酬の額は、監査人の独立性及び当社グループの規模・特性、監査日数等を勘案して決定することとしております。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)及び事業年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、以下のとおり連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】  
【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	455,877	524,110
売掛金	120,426	128,160
有価証券	10,118	10,124
商品及び製品	22,334	2,561
仕掛制作費	-	1,117
前払費用	13,228	14,808
関係会社短期貸付金	150,000	150,000
繰延税金資産	2,744	4,813
その他	3,423	1,913
貸倒引当金	674	174
流動資産合計	777,481	837,434
固定資産		
有形固定資産		
建物	28,467	26,277
減価償却累計額	17,964	19,677
建物(純額)	10,502	6,599
工具、器具及び備品	125,861	114,825
減価償却累計額	106,763	100,911
工具、器具及び備品(純額)	19,097	13,913
リース資産	-	3,900
減価償却累計額	-	520
リース資産(純額)	-	3,380
有形固定資産合計	29,600	23,893
無形固定資産		
のれん	537,099	498,867
ソフトウェア	31,681	21,894
その他	1,487	1,369
無形固定資産合計	570,269	522,131
投資その他の資産		
敷金及び保証金	47,489	46,108
繰延税金資産	589	254
その他	2,621	2,732
貸倒引当金	2,122	2,116
投資その他の資産合計	48,578	46,979
固定資産合計	648,447	593,004
資産合計	1,425,928	1,430,439

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	27,232	25,788
未払金	20,998	30,078
未払法人税等	1,579	1,831
未払消費税等	680	6,950
前受金	18,464	9,872
預り金	4,392	5,079
前受収益	26,197	53,833
その他	719	1,475
流動負債合計	100,265	134,910
固定負債		
リース債務	-	2,730
繰延税金負債	37	23
退職給付引当金	628	708
固定負債合計	665	3,462
負債合計	100,931	138,372
純資産の部		
株主資本		
資本金	347,161	347,234
資本剰余金	982,610 <sub>1</sub>	982,682 <sub>1</sub>
利益剰余金	7,947	42,977
自己株式	750	750
株主資本合計	1,321,074	1,286,189
その他の包括利益累計額		
その他の包括利益累計額合計	-	-
新株予約権	3,923	5,877
純資産合計	1,324,997	1,292,067
負債純資産合計	1,425,928	1,430,439

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
売上高	1,071,660	886,762
売上原価	681,295	485,090
売上総利益	390,365	401,671
販売費及び一般管理費		
役員報酬	69,420	64,270
給料手当及び賞与	163,138	144,695
法定福利費	27,391	23,605
販売促進費	9,553	3,555
広告宣伝費	7,076	11,864
賃借料	40,903	35,715
退職給付引当金繰入額	-	98
支払報酬	24,579	22,487
減価償却費	19,184	15,371
のれん償却額	32,712	32,712
その他	81,452	76,313
販売費及び一般管理費合計	475,412	430,689
営業損失( )	85,047	29,018
営業外収益		
受取利息	2,234	2,008
無効ユニット収入	1 3,171	1 1,212
その他	845	90
営業外収益合計	6,251	3,311
営業外費用		
証券事務取扱手数料	5,746	5,003
その他	1,091	972
営業外費用合計	6,837	5,976
経常損失( )	85,632	31,683
特別利益		
貸倒引当金戻入額	518	-
退職給付引当金戻入額	6,852	-
新株予約権戻入益	22	-
特別利益合計	7,393	-
特別損失		
固定資産除却損	2 303	2 164
組織統合関連費用	-	3 4,438
特別損失合計	303	4,603
税金等調整前当期純損失( )	78,542	36,286
法人税、住民税及び事業税	674	490
法人税等調整額	2,085	1,747
法人税等合計	2,759	1,256



	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純損失 ( )	81,302	35,029
少数株主利益	-	-
当期純損失 ( )	81,302	35,029

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純損失 ( )	81,302	35,029
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	-	-
包括利益	81,302	35,029
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	81,302	35,029
少数株主に係る包括利益	-	-

## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	346,872	347,161
当期変動額		
新株の発行	289	72
当期変動額合計	289	72
当期末残高	347,161	347,234
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	982,320	982,610
当期変動額		
新株の発行	289	72
当期変動額合計	289	72
当期末残高	982,610	982,682
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	86,677	7,947
当期変動額		
剰余金の配当	13,322	-
当期純損失( )	81,302	35,029
当期変動額合計	94,624	35,029
当期末残高	7,947	42,977
<b>自己株式</b>		
当期首残高	750	750
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	750	750
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	1,415,120	1,321,074
当期変動額		
新株の発行	578	144
剰余金の配当	13,322	-
当期純損失( )	81,302	35,029
当期変動額合計	94,046	34,885
当期末残高	1,321,074	1,286,189
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
当期首残高	-	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	-	-
当期変動額合計	-	-
当期末残高	-	-

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>新株予約権</b>		
当期首残高	1,848	3,923
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,074	1,954
当期変動額合計	2,074	1,954
当期末残高	3,923	5,877
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	1,416,969	1,324,997
当期変動額		
新株の発行	578	144
剰余金の配当	13,322	-
当期純損失（ ）	81,302	35,029
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,074	1,954
当期変動額合計	91,971	32,930
当期末残高	1,324,997	1,292,067

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純損失( )	78,542	36,286
減価償却費	33,411	26,973
のれん償却額	32,712	32,712
組織統合関連費用	-	4,438
長期前払費用償却額	575	375
貸倒引当金の増減額( は減少)	291	506
退職給付引当金の増減額( は減少)	7,152	80
固定資産除却損	303	164
受取利息及び受取配当金	2,234	2,008
売上債権の増減額( は増加)	93,548	7,727
たな卸資産の増減額( は増加)	18,254	18,656
仕入債務の増減額( は減少)	42,099	1,444
前受収益の増減額( は減少)	143	27,636
預り金の増減額( は減少)	65	687
その他	12,744	7,289
小計	977	71,042
利息の受取額	2,343	2,020
法人税等の支払額	12,148	336
法人税等の還付額	16,149	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,366	72,727
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
固定資産の取得による支出	22,222	4,883
関係会社貸付けによる支出	150,000	-
短期貸付金の回収による収入	100,000	-
定期預金の増減額( は増加)	162	20,054
その他	681	888
投資活動によるキャッシュ・フロー	71,703	24,050
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	-	546
株式の発行による収入	395	98
配当金の支払額	12,820	51
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,424	498
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	78,761	48,178
現金及び現金同等物の期首残高	436,488	357,727
現金及び現金同等物の期末残高	357,727	405,905

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数

1社

(2) 連結子会社の名称

株式会社S E プラス

2 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

(その他有価証券)

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

たな卸資産

(製品・商品)

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

(仕掛製作費)

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。但し、平成10年4月1日以降取得の建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用し、取得原価が10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年で均等償却する方法を採用しております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 6年～22年

工具、器具及び備品 4年～15年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)による定額法によっております。

長期前払費用

定額法によっております。

## リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

### (3) 重要な引当金の計上基準

#### 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案して回収不能見込額を計上しております。

#### 退職給付引当金

従業員の退職に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

### (4) 重要な収益及び費用の計上基準

#### ソフトウェアの請負開発及びカスタマイズ作業に係る収益の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められるものについては、工事進行基準を、その他の契約については検収基準を適用しております。なお、進捗度の見積りについては、あらかじめ契約上の成果物を作業工程単位に分割するとともに各作業工程の価値を決定し、決算日において完了した作業工程の価値が全作業工程に占める割合をもって作業進捗度とする方法を用いております。

### (5) のれんの償却方法及び償却期間

個別決算上計上しているのれんについては、5年、連結上発生するのれんについては、20年による定額法によっております。

### (6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅かなリスクしか負わない短期投資からなっております。

### (7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

#### 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

【表示方法の変更】

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外費用」の「為替差損」は、当連結会計年度においては、重要性がなくなったため「営業外費用」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「為替差損」に表示していた12千円は、「その他」として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めておりました「前受収益の増減額」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた 12,887千円は、「前受収益の増減額」 143千円、「その他」 12,744千円として組み替えております。

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「為替差損益」は、当連結会計年度においては、重要性がなくなったため、営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「為替差損益」に表示していた0千円は、「その他」として組み替えております。

【追加情報】

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

- 1 資本剰余金について、連結貸借対照表と個別貸借対照表との間に差額がありますが、その原因は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
貸借対照表上の資本剰余金	329,649千円	329,721千円
株式交換に伴う会計処理	652,960千円	652,960千円
連結貸借対照表上の資本剰余金	982,610千円	982,682千円

(連結損益計算書関係)

- 1 無効ユニット収入の内容は、次のとおりであります。

クラウドライセンスで販売したユニットは、お客様の使用期限を使用開始日から1年間としておりま



す。使用期限までに使用されなかったユニットの金額を無効ユニット収入として営業外収益に計上しております。

2 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
工具、器具及び備品	303千円	164千円

3 組織統合関連費用の内容は、次のとおりであります。

(1) 組織統合関連費用の内訳

特別損失の組織統合関連費用は、当社グループ内組織の融合効率化に向けた取組みとして実行される、事業拠点の移転統合に伴う固定資産の減損損失2,331千円、資産撤去廃棄費用1,375千円、中途解約違約金401千円その他であります。

(2) 減損損失を認識した資産又は資産グループの内容

用途	種類	場所
事務所内装設備等	建物 工具、器具及び備品	東京都新宿区など

(3) 減損損失の認識に至った経緯

連結子会社の事業拠点の移転（平成24年5月）に伴い資産を除去する予定であることから、当該資産について減損損失を特別損失（建物2,190千円、工具、器具及び備品141千円）として計上しております。

(4) 資産のグルーピングの方法

原則として、当社企業グループの事業単位及び継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分を基礎として資産のグルーピングを行っております。なお、処分予定資産等については、個別に独立した単位としてグルーピングを行っております。

(5) 回収可能額の算定方法

回収可能価額は、正味売却価額をゼロとして帳簿価額を全額減損損失としております。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

該当事項はありません。

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	13,343	8		13,351

(変動事由の概要)

ストック・オプションの権利行使による増加 8株

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	21			21

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	平成20年 9月29日取締役会決議ストックオプション					2,038	
	平成22年 6月17日取締役会決議ストックオプション(注)1					1,884	
合計						3,923	

(注)1 上記の新株予約権は、権利行使期間の初日が到来していません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年 6月17日 定時株主総会	普通株式	13,322	1,000	平成22年 3月31日	平成22年 6月21日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	13,351	2		13,353

(変動事由の概要)

ストック・オプションの権利行使による増加 2株

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	21			21

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	平成20年9月29日取締役会決議ストックオプション					1,854	
	平成22年6月17日取締役会決議ストックオプション(注)1					4,022	
合計						5,877	

(注)1 上記の新株予約権は、権利行使期間の初日が到来していません。

#### 4 配当に関する事項

##### (1) 配当金支払額

該当事項はありません。

##### (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はありません。

#### (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

##### 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
現金及び預金勘定	455,877千円	524,110千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	98,150千円	118,205千円
現金及び現金同等物	357,727千円	405,905千円

[次へ](#)

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産 本社における社内利用複合機(工具、器具及び備品)であります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	4,265千円	2,630千円	1,635千円
合計	4,265千円	2,630千円	1,635千円

	当連結会計年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品			
合計			

(2) 未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年以内	860千円	千円
1年超	794千円	千円
合計	1,654千円	千円

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	906千円	226千円
減価償却費相当額	853千円	213千円
支払利息相当額	16千円	3千円

(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(金融商品関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、営業活動によって獲得した資金を以って事業運営を行うことを原則としております。一時的な余剰資金については、流動性かつ安全性の高い金融資産で運用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、個人顧客との取引については事前入金取引を原則としております。また法人顧客との取引についても、ほとんどが2ヶ月以内の入金期日となっており、顧客の信用リスクは限定的であります。有価証券は、マネー・マネジメント・ファンドであり市場価格の変動リスクに晒されております。関係会社短期貸付金は、当社の親会社であるSEホールディングス・アンド・インキュベーションズ(株)への貸付金であり、SEホールディングス・アンド・インキュベーションズ(株)グループ間の資金余剰と資金ニーズを平準化・円滑化することにより資金の有効活用を図るため行っているグループ資金運用制度契約によるものであります。当社にとっては、安全性と流動性を重視した際の有利な貸付先の一つと捉えております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

売掛金については、当社の与信管理規程に則り、相手先ごとの期日管理及び残高管理を行っております。有価証券については、毎月取引先銀行から提示される資料により速やかに価格を把握しております。関係会社短期貸付金については、SEホールディングス・アンド・インキュベーションズ(株)グループ内で毎月行われる定例会議で、グループ各社の業績を把握しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日(当期の連結決算日)における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額
(1) 現金及び預金	455,877	455,877	
(2) 売掛金	120,426	120,426	
(3) 有価証券	10,118	10,118	
(4) 関係会社短期貸付金	150,000	150,000	
資産計	736,423	736,423	

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金、(4) 関係会社短期貸付金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券

これは、マネー・マネジメント・ファンドであり短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

2 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	455,498			
売掛金	120,426			
有価証券	10,118			
関係会社短期貸付金	150,000			
合計	736,043			

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、営業活動によって獲得した資金を以って事業運営を行うことを原則としております。一時的な余剰資金については、流動性かつ安全性の高い金融資産で運用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、個人顧客との取引については事前入金取引を原則としております。また法人顧客との取引についても、ほとんどが2ヶ月以内の入金期日となっており、顧客の信用リスクは限定的であります。有価証券は、マネー・マネジメント・ファンドであり市場価格の変動リスクに晒されております。関係会社短期貸付金は、当社の親会社であるSEホールディングス・アンド・インキュベーションズ(株)への貸付金であり、SEホールディングス・アンド・インキュベーションズ(株)グループ間の資金余剰と資金ニーズを平準化・円滑化することにより資金の有効活用を図るため行っているグループ資金運用制度契約によるものであります。当社にとっては、安全性と流動性を重視した際の有利な貸付先の一つと捉えております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

売掛金については、当社の与信管理規程に則り、相手先ごとの期日管理及び残高管理を行っております。有価証券については、毎月取引先銀行から提示される資料により速やかに価格を把握しております。関係会社短期貸付金については、SEホールディングス・アンド・インキュベーションズ(株)グループ内で毎月行われる定例会議で、グループ各社の業績を把握しております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成24年3月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額
(1) 現金及び預金	524,110	524,110	
(2) 売掛金	128,160	128,160	
(3) 有価証券	10,124	10,124	
(4) 関係会社短期貸付金	150,000	150,000	
資産計	812,394	812,394	

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1)現金及び預金、(2)売掛金、(4)関係会社短期貸付金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3)有価証券

これは、マネー・マネジメント・ファンドであり短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

2 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	523,926			
売掛金	128,160			
有価証券	10,124			
関係会社短期貸付金	150,000			
合計	812,210			

(有価証券関係)

前連結会計年度（平成23年3月31日）

### 1. その他有価証券

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価（千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
その他	10,118	10,118	
合計	10,118	10,118	

当連結会計年度（平成24年3月31日）

### 1. その他有価証券

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価（千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
その他	10,124	10,124	
合計	10,124	10,124	

(デリバティブ取引関係)

当社グループは、デリバティブ取引を利用していないため該当事項はありません。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出型の企業年金制度である中小企業退職金共済制度に加入しております。連結子会社は退職一時金制度を採用しております。

2 退職給付債務及びその内訳

退職給付債務	628千円
退職給付引当金	628千円

3 退職給付費用

勤務費用	千円
その他の退職給付費用	2,160千円

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

連結子会社の退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出型の企業年金制度である中小企業退職金共済制度に加入しております。連結子会社は退職一時金制度を採用しております。

2 退職給付債務及びその内訳

退職給付債務	708千円
退職給付引当金	708千円

3 退職給付費用

勤務費用	98千円
その他の退職給付費用	2,010千円

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

連結子会社の退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。



(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 当連結会計年度における費用計上額及び科目名

販売費及び一般管理費(株式報酬費用) 2,280千円

2. 権利不行使による失効により利益として計上した金額

新株予約権戻入益 22千円

3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

会社名	提出会社	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	平成15年9月18日	平成16年9月22日	平成17年9月22日	平成20年9月29日
付与対象者の 区分別人数(注)1	取締役 5名 監査役 3名 従業員 25名 その他 5名	取締役 4名 監査役 2名 従業員 23名 その他 3名	取締役 4名 監査役 3名 従業員 27名 その他 2名	取締役 6名 監査役 3名 従業員 28名 子会社 従業員 16名 その他 4名
株式の種類及び付与数 (注)2	普通株式 850株	普通株式 150株	普通株式 62株	普通株式 120株
付与日	平成15年12月5日	平成16年10月1日	平成17年10月18日	平成20年9月30日
権利確定条件	(注)3	(注)3	(注)3	(注)3
対象勤務期間	(注)4	(注)4	(注)4	(注)4
権利行使期間	平成16年1月1日 平成22年9月17日	平成18年10月1日 平成23年9月30日	平成19年10月18日 平成24年9月30日	平成22年10月1日 平成27年7月31日

会社名	提出会社
決議年月日	平成22年6月17日
付与対象者の 区分別人数(注)1	取締役 6名 監査役 4名 従業員 35名 子会社 従業員 19名 その他 3名
株式の種類及び付与数 (注)2	普通株式 200株
付与日	平成22年7月15日
権利確定条件	(注)3
対象勤務期間	(注)4
権利行使期間	平成24年7月16日 平成29年7月15日

(注)1 その他は、当社と請負業務契約を締結している契約インストラクターであります。

2 株式数に換算して記載しております。

3 権利確定条件は付されておられません。

4 対象勤務期間の定めはありません。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

ストック・オプションの数

会社名	提出会社	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	平成15年9月18日	平成16年9月22日	平成17年9月22日	平成20年9月29日
権利確定前				
前連結会計年度末(株)				102
付与(株)				
失効(株)				
権利確定(株)				102
未確定残(株)				
権利確定後				
前連結会計年度末(株)	683	91	39	
権利確定(株)				102
失効(株)	683			5
権利行使(株)				8
未行使残(株)		91	39	89

会社名	提出会社
決議年月日	平成22年6月17日
権利確定前	
前連結会計年度末(株)	
付与(株)	200
失効(株)	2
権利確定(株)	
未確定残(株)	198
権利確定後	
前連結会計年度末(株)	
権利確定(株)	
失効(株)	
権利行使(株)	
未行使残(株)	

単価情報

会社名	提出会社	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	平成15年9月18日	平成16年9月22日	平成17年9月22日	平成20年9月29日
権利行使価格（円）	190,000	277,750	381,250	49,444
権利行使時の平均株価（円）				65,600
付与日における公正な評価単価（円）				22,901
会社名	提出会社			
決議年月日	平成22年6月17日			
権利行使価格（円）	55,073			
権利行使時の平均株価（円）				
付与日における公正な評価単価（円）	26,754			

（注）平成18年6月期以前のストック・オプションの公正な評価単価については、会社法の施行前に付与されたストック・オプションであるため、記載しておりません。

4. 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

(1) 使用した算定技法

ブラック・ショールズ式

(2) 使用した主な基礎数値及びその見積方法

株価変動性 80.97%

平成19年7月1日から平成22年7月14日までの株価の実績に基づき算定

予想残存期間 4.5年

十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積もっております。

予想配当

1,000円/株

平成22年3月期の配当実績によっております。

無リスク利率 0.39%

予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回り

5. スtock・オプションの権利確定数の見積方法

ストック・オプションの権利確定数の見積については、基本的には、将来の失効数の合理的な見積もりは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1. 当連結会計年度における費用計上額及び科目名

販売費及び一般管理費(株式報酬費用) 2,138千円

2. 権利不行使による失効により利益として計上した金額

新株予約権戻入益 137千円

3. ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) ストック・オプションの内容

会社名	提出会社	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	平成16年 9月22日	平成17年 9月22日	平成20年 9月29日	平成22年 6月17日
付与対象者の 区分別人数(注)1	取締役 4名 監査役 2名 従業員 23名 その他 3名	取締役 4名 監査役 3名 従業員 27名 その他 2名	取締役 6名 監査役 3名 従業員 28名 子会社 従業員 16名 その他 4名	取締役 6名 監査役 4名 従業員 35名 子会社 従業員 19名 その他 3名
株式の種類及び付与数 (注)2	普通株式 150株	普通株式 62株	普通株式 120株	普通株式 200株
付与日	平成16年10月 1日	平成17年10月18日	平成20年 9月30日	平成22年 7月15日
権利確定条件	(注)3	(注)3	(注)3	(注)3
対象勤務期間	(注)4	(注)4	(注)4	(注)4
権利行使期間	平成18年10月 1日 平成23年 9月30日	平成19年10月18日 平成24年 9月30日	平成22年10月 1日 平成27年 7月31日	平成24年 7月16日 平成29年 7月15日

(注)1 その他は、当社と請負業務契約を締結している契約インストラクターであります。

2 株式数に換算して記載しております。

3 権利確定条件は付されておられません。

4 対象勤務期間の定めはありません。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

ストック・オプションの数

会社名	提出会社	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	平成16年 9月22日	平成17年 9月22日	平成20年 9月29日	平成22年 6月17日
権利確定前				
前連結会計年度末 (株)				198
付与(株)				
失効(株)				22
権利確定(株)				
未確定残(株)				176
権利確定後				
前連結会計年度末 (株)	91	39	89	
権利確定(株)				
失効(株)	91	1	6	
権利行使(株)			2	
未行使残(株)		38	81	

単価情報

会社名	提出会社	提出会社	提出会社	提出会社
-----	------	------	------	------

決議年月日	平成16年9月22日	平成17年9月22日	平成20年9月29日	平成22年6月17日
権利行使価格（円）	277,750	381,250	49,444	55,073
権利行使時の平均株価（円）			68,000	
付与日における公正な評価単価（円）			22,901	26,754

（注）平成18年6月期以前のストック・オプションの公正な評価単価については、会社法の施行前に付与されたストック・オプションであるため、記載していません。

#### 4. 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

該当事項はありません。

#### 5. スtock・オプションの権利確定数の見積方法

ストック・オプションの権利確定数の見積については、基本的には、将来の失効数の合理的な見積もりは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(1)流動資産		
未払事業税	514千円	520千円
貸倒引当金	211千円	千円
組織関連統合費用	千円	1,814千円
繰越欠損金	21,303千円	18,218千円
控除対象還付法人税額(住民税)	304千円	304千円
繰戻還付対応欠損金額(事業税)	510千円	683千円
その他	392千円	1,113千円
評価性引当額	20,491千円	17,841千円
計	2,744千円	4,813千円
(2)固定資産		
貸倒引当金	859千円	804千円
退職給付引当金	264千円	262千円
投資有価証券	405千円	千円
その他	325千円	254千円
評価性引当額	1,264千円	1,067千円
計	589千円	254千円
繰延税金資産合計	3,334千円	5,067千円

(繰延税金負債)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
固定負債		
特別償却準備金	37千円	23千円
繰延税金負債合計	37千円	23千円
差引：繰延税金資産純額	3,296千円	5,043千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

前連結会計年度及び当連結会計年度において、税金等調整前当期純損失を計上しているため注記を省略しております。

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の40.5%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは38.0%、平成27年4月1日以降のものについては35.6%にそれぞれ変更されております。

それによる繰延税金資産及び繰延税金負債の金額に対する影響額は軽微であります

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社及び当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・サービス別の事業を基礎とし、製品・サービス別の事業区分ごとに包括的な戦略を立案し事業活動を展開しております。

従って、当社は製品・サービス別の事業区分を基礎とした事業セグメントから構成されており、「iLearning事業」、「Learning事業」、「人材紹介・派遣事業」の3つを報告セグメントとしております。

「iLearning事業」は、E-Learning学習ソフトウェア「iStudyシリーズ」及びE-Learning、スキル管理サーバソフトウェア「iStudy Enterprise Server」の開発・販売を提供しております。

「Learning事業」は、Oracle認定研修・IBM認定研修を中心とした研修サービスを提供しております。

「人材紹介・派遣事業」は、ITエンジニア向けの転職、派遣紹介を提供しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1、3	連結財務諸表計 上額(注) 2
	iLearning 事業	Learning 事業	人材紹介・派遣 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	575,795	361,054	134,811	1,071,660		1,071,660
セグメント間の内部 売上高又は振替高	527		72,698	73,225	73,225	
計	576,322	361,054	207,509	1,144,886	73,225	1,071,660
セグメント損失( )	24,942	5,843	21,365	52,151	32,895	85,047
セグメント資産	179,199	79,511	19,634	278,346	1,147,582	1,425,928
その他の項目						
減価償却費	24,799	7,478	1,132	33,411		33,411
のれんの償却額					32,712	32,712
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	10,209	11,523		21,732		21,732

(注) 1 セグメント損失( )の調整額 32,895千円には、セグメント間取引消去 182千円、のれん償却額 32,712千円が含まれております。

2 セグメント損失( )は、連結損益計算書の営業損失( )と調整を行っております。

3 セグメント資産の調整額1,147,582千円には、各報告セグメントに配分していない全社資産が含まれております。全社資産は主に、現金及び預金455,877千円、関係会社短期貸付金150,000千円、連結上発生したのれん531,580千円が含まれております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

### 1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社及び当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・サービス別の事業を基礎とし、製品・サービス別の事業区分ごとに包括的な戦略を立案し事業活動を展開しております。

従って、当社は製品・サービス別の事業区分を基礎とした事業セグメントから構成されており、「iLearning事業」、「Learning事業」、「人材紹介・派遣事業」の3つを報告セグメントとしております。

「iLearning事業」は、E-Learning学習ソフトウェア「iStudyシリーズ」及びE-Learning、スキル管理サーバソフトウェア「iStudy Enterprise Server」の開発・販売を提供しております。

「Learning事業」は、Oracle認定研修・IBM認定研修を中心とした研修サービスを提供しております。

「人材紹介・派遣事業」は、ITエンジニア向けの転職、派遣紹介を提供しております。

### 2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場価格に基づいております。

### 3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1、3	連結財務諸表計 上額(注) 2
	iLearning 事業	Learning 事業	人材紹介・派遣 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	458,016	290,669	138,076	886,762		886,762
セグメント間の内部 売上高又は振替高	314	407	15,142	15,863	15,863	
計	458,330	291,077	153,218	902,626	15,863	886,762
セグメント利益又はセ グメント損失( )	24,115	33,836	5,127	4,593	33,611	29,018
セグメント資産	164,710	56,335	26,291	247,336	1,183,102	1,430,439
その他の項目						
減価償却費	19,136	7,388	449	26,973		26,973
のれんの償却額					32,712	32,712
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	7,778	495	64	8,338		8,338

(注) 1 セグメント損失( )の調整額 33,611千円には、セグメント間取引消去 899千円、のれん償却額 32,712千円が含まれております。

2 セグメント損失( )は、連結損益計算書の営業損失( )と調整を行っております。

3 セグメント資産の調整額1,183,102千円には、各報告セグメントに配分していない全社資産が含まれております。全社資産は主に、現金及び預金524,110千円、関係会社短期貸付金150,000千円、連結上発生したのれん498,867千円が含まれております。



【関連情報】

前連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
日本アイ・ビー・エム(株)	135,432	iLearning事業

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				全社・消去	合計
	iLearning事業	Learning事業	人材紹介・派遣事業	計		
減損損失	488	746	1,096	2,331		2,331

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				全社・消去	合計
	iLearning 事業	Learning 事業	人材紹介・派遣 事業	計		
当期末残高	5,519			5,519	531,580	537,099

(注) のれん償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				全社・消去	合計
	iLearning 事業	Learning 事業	人材紹介・派遣 事業	計		
当期末残高					498,867	498,867

(注) のれん償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

1 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る。)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の 内容又は 職業	議決権等の 所有(被所 有)割合	関連当 事者との 関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
親会社	SEホールディングス・アンド・インキュベーションズ株式会社	東京都 新宿区	1,406,612	事業子 会社の 管理統 括	被所有 直接 53.92%	資金 援助 役員 兼任	資金 の 貸付	150,000	関係会社短期貸付金	150,000
							利息の 受取り	513	その他 流動資産	513

(注) 利息の受取りについては、市場金利を勘案して利率を決定しております。

連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の 内容又は 職業	議決権等の 所有(被所 有)割合	関連当 事者との 関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
同一の 親会社 をもつ 会社	INCユニテッド株式会社	東京都 新宿区	100,000	ネット カフェ 運営	%	資金 援助	貸付 金の 回収	100,000		
							利息の 受取り	1,446		

(注) 利息の受取りについては、市場金利を勘案して利率を決定しております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

SEホールディングス・アンド・インキュベーションズ株式会社(株式会社ジャスダック証券取引所に上場)

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る。)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の 内容又は 職業	議決権等の 所有(被所 有)割合	関連当 事者との 関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
親会社	SEホールディングス・アンド・インキュベーションズ株式会社	東京都 新宿区	1,406,612	事業子 会社の 管理統 括	被所有 直接 53.92%	資金 援助 役員 兼任	資金 の 貸付	150,000	関係会社短期貸付金	150,000
							利息の 受取り	1,873	その他 流動資産	512

(注) 利息の受取りについては、市場金利を勘案して利率を決定しております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

SEホールディングス・アンド・インキュベーションズ株式会社(株式会社ジャスダック証券取引所に上場)

## (1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	99,105円35銭	96,473円84銭
1株当たり当期純損失金額	6,102円61銭	2,627円59銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり当期純損失金額		
当期純損失	81,302千円	35,029千円
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る当期純損失	81,302千円	35,029千円
普通株式の期中平均株式数	13,322株	13,331株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	平成16年9月22日定時株主総会決議 ストック・オプション(平成13年改正旧商法第280条ノ20及び平成13年改正旧商法第280条ノ21の規定に基づく新株予約権)普通株式 91株 平成17年9月22日定時株主総会決議 ストック・オプション(平成13年改正旧商法第280条ノ20及び平成13年改正旧商法第280条ノ21の規定に基づく新株予約権)普通株式 39株 平成20年9月29日取締役会決議 ストック・オプション(会社法の規定に基づく新株予約権)普通株式 89株	平成17年9月22日定時株主総会決議 ストック・オプション(平成13年改正旧商法第280条ノ20及び平成13年改正旧商法第280条ノ21の規定に基づく新株予約権)普通株式 38株 平成20年9月29日取締役会決議 ストック・オプション(会社法の規定に基づく新株予約権)普通株式 81株 平成22年6月17日取締役会決議 ストック・オプション(会社法の規定に基づく新株予約権)普通株式 176株

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定のリース債務		819		
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)		2,730		平成25年4月7日～ 平成28年7月7日
合計		3,549		

(注) 1. リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。

2. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	819	819	819	273

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

	第1四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	第2四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	第3四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	第16期 連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
売上高(千円)	199,913	414,106	658,304	886,762
税金等調整前四半期 (当期)純損失金額 ( ) (千円)	30,581	56,508	43,326	36,286
四半期(当期)純損失金額 ( ) (千円)	29,589	52,450	45,888	35,029
1株当たり四半期 (当期)純損失金額 ( ) (円)	2,219.73	3,934.47	3,442.13	2,627.59

	第1四半期 連結会計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	第2四半期 連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)	第3四半期 連結会計期間 (自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)	第4四半期 連結会計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり四半期利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 ( ) (円)	2,219.73	1,714.77	492.20	814.46

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	361,932	426,668
売掛金	96,121	100,120
有価証券	10,118	10,124
商品及び製品	22,334	2,561
仕掛制作費	-	1,117
前払費用	12,466	14,069
繰延税金資産	725	1,224
関係会社短期貸付金	150,000	150,000
その他	3,047	1,845
貸倒引当金	521	-
流動資産合計	656,225	707,731
固定資産		
有形固定資産		
建物	25,524	25,368
減価償却累計額	17,456	19,021
建物（純額）	8,068	6,346
工具、器具及び備品	118,965	107,101
減価償却累計額	102,283	94,845
工具、器具及び備品（純額）	16,682	12,255
リース資産	-	3,900
減価償却累計額	-	520
リース資産（純額）	-	3,380
有形固定資産合計	24,750	21,982
無形固定資産		
のれん	5,519	-
ソフトウェア	32,455	22,499
その他	1,487	1,369
無形固定資産合計	39,462	23,869
投資その他の資産		
関係会社株式	34,050	34,050
敷金及び保証金	42,731	41,350
その他	2,621	2,732
貸倒引当金	2,122	2,116
投資その他の資産合計	77,280	76,016
固定資産合計	141,494	121,868
資産合計	797,720	829,599

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	18,025	14,072
未払金	9,371	14,210
未払法人税等	1,399	1,651
未払消費税等	-	6,050
前受金	18,464	8,804
預り金	2,331	3,014
前受収益	26,134	53,833
その他	719	1,475
流動負債合計	76,446	103,112
固定負債		
リース債務	-	2,730
繰延税金負債	37	23
固定負債合計	37	2,753
負債合計	76,484	105,866
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	347,161	347,234
資本剰余金		
資本準備金	88,289	88,361
その他資本剰余金	241,359	241,359
資本剰余金合計	329,649	329,721
利益剰余金		
利益準備金	100	100
その他利益剰余金		
特別償却準備金	55	38
繰越利益剰余金	41,095	41,510
利益剰余金合計	41,251	41,649
自己株式	750	750
株主資本合計	717,312	717,855
新株予約権	3,923	5,877
純資産合計	721,235	723,732
負債純資産合計	797,720	829,599

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>売上高</b>		
製品売上高	455,305	391,435
商品売上高	86,813	33,056
サービス売上高	241,678	189,675
売上高合計	783,797	614,168
<b>売上原価</b>		
製品売上原価	270,825	169,170
商品売上原価	66,041	28,308
サービス売上原価	181,244	137,201
売上原価合計	518,110	334,679
<b>売上総利益</b>	265,687	279,488
<b>販売費及び一般管理費</b>		
役員報酬	50,320	46,880
給料手当及び賞与	102,924	91,914
法定福利費	18,320	14,856
販売促進費	9,553	3,555
広告宣伝費	421	3,136
賃借料	29,306	27,626
支払報酬	18,323	17,013
減価償却費	17,275	14,649
その他	64,788	55,836
販売費及び一般管理費合計	311,232	275,468
<b>営業利益又は営業損失( )</b>	45,544	4,019
<b>営業外収益</b>		
受取利息	<sup>1</sup> 2,488	<sup>1</sup> 1,992
無効ユニット収入	<sup>2</sup> 3,171	<sup>2</sup> 1,212
その他	252	89
営業外収益合計	5,912	3,295
<b>営業外費用</b>		
証券事務取扱手数料	5,746	5,003
その他	983	972
営業外費用合計	6,730	5,976
<b>経常利益又は経常損失( )</b>	46,362	1,338
<b>特別利益</b>		
貸倒引当金戻入額	450	-
新株予約権戻入益	22	-
特別利益合計	472	-



	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
特別損失		
固定資産除却損	3 303	3 164
組織統合関連費用	-	4 978
特別損失合計	303	1,143
税引前当期純利益又は税引前当期純損失 ( )	46,193	195
法人税、住民税及び事業税	494	310
法人税等調整額	2,637	513
法人税等合計	3,132	202
当期純利益又は当期純損失 ( )	49,325	397

## 【売上原価明細書】

## 1 製品売上原価明細書

区分	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	
	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
期首製品たな卸高		131	0.0	
当期製品仕入高				5,744
当期製品製造原価	256,393	94.7	153,140	90.0
製品ロイヤリティー	14,299	5.3	11,345	6.6
合計	270,825	100.0	170,230	100.0
期末製品たな卸高			1,060	
製品売上原価	270,825		169,170	

## (製品製造原価明細書)

区分	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	
	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
1 材料費				
2 人件費	111,009	43.3	99,086	64.2
3 業務委託費	112,634	43.9	23,721	15.4
4 保守利用料	3,701	1.4	5,963	3.9
5 経費				
(1) 減価償却費	10,221		6,543	
(2) 賃借料	8,492		8,595	
(3) その他	10,333	29,047	10,347	25,486
当期総製造費用		256,393		154,257
期首仕掛制作費				
合計		256,393		154,257
期末仕掛制作費				1,117
製品製造原価		256,393		153,140

(注) ソフトウェアの請負開発及びカスタマイズ作業については、実際原価に基づく個別原価計算を、それ以外については、製品別単純総合原価計算によっております。

## 2 商品売上原価明細書

区分	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	
	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
期首商品たな卸高		3,948	4.5	22,334
当期商品仕入高		84,426	95.5	7,474
合計		88,375	100.0	29,809
期末商品たな卸高		22,334		1,500
商品売上原価		66,041		28,308

## 3 サービス売上原価明細書

区分	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)		
	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)	
1 人件費		35,473	19.6	16,992	12.4
2 業務委託費		1,402	0.8	400	0.3
3 テキスト関係費		82	0.0	55	0.0
4 研修手数料		37,023	20.4	28,733	20.9
5 研修講師料		20,825	11.5	19,774	14.4
6 その他		55,160	30.4	41,449	30.2
7 間接経費					
(1) 減価償却費	4,005			5,058	
(2) 賃借料	15,853			15,128	
(3) その他	11,418	31,276	17.3	9,607	29,794
サービス売上原価		181,244	100.0	137,201	100.0

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	346,872	347,161
当期変動額		
新株の発行	289	72
当期変動額合計	289	72
当期末残高	347,161	347,234
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
当期首残高	88,000	88,289
当期変動額		
新株の発行	289	72
当期変動額合計	289	72
当期末残高	88,289	88,361
<b>その他資本剰余金</b>		
当期首残高	241,359	241,359
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	241,359	241,359
<b>資本剰余金合計</b>		
当期首残高	329,359	329,649
当期変動額		
新株の発行	289	72
当期変動額合計	289	72
当期末残高	329,649	329,721
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
当期首残高	100	100
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	100	100
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>特別償却準備金</b>		
当期首残高	117	55
当期変動額		
特別償却準備金の取崩	61	16
当期変動額合計	61	16
当期末残高	55	38
<b>繰越利益剰余金</b>		
当期首残高	103,682	41,095

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	13,322	-
特別償却準備金の取崩	61	16
当期純利益又は当期純損失( )	49,325	397
<b>当期変動額合計</b>	<b>62,586</b>	<b>414</b>
<b>当期末残高</b>	<b>41,095</b>	<b>41,510</b>
<b>利益剰余金合計</b>		
<b>当期首残高</b>	<b>103,899</b>	<b>41,251</b>
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	13,322	-
当期純利益又は当期純損失( )	49,325	397
<b>当期変動額合計</b>	<b>62,647</b>	<b>397</b>
<b>当期末残高</b>	<b>41,251</b>	<b>41,649</b>
<b>自己株式</b>		
<b>当期首残高</b>	<b>750</b>	<b>750</b>
<b>当期変動額</b>		
<b>当期変動額合計</b>	<b>-</b>	<b>-</b>
<b>当期末残高</b>	<b>750</b>	<b>750</b>
<b>株主資本合計</b>		
<b>当期首残高</b>	<b>779,381</b>	<b>717,312</b>
<b>当期変動額</b>		
新株の発行	578	144
剰余金の配当	13,322	-
当期純利益又は当期純損失( )	49,325	397
<b>当期変動額合計</b>	<b>62,068</b>	<b>542</b>
<b>当期末残高</b>	<b>717,312</b>	<b>717,855</b>
<b>新株予約権</b>		
<b>当期首残高</b>	<b>1,848</b>	<b>3,923</b>
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	2,074	1,954
<b>当期変動額合計</b>	<b>2,074</b>	<b>1,954</b>
<b>当期末残高</b>	<b>3,923</b>	<b>5,877</b>

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
純資産合計		
当期首残高	781,230	721,235
当期変動額		
新株の発行	578	144
剰余金の配当	13,322	-
当期純利益又は当期純損失( )	49,325	397
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	2,074	1,954
当期変動額合計	59,994	2,497
当期末残高	721,235	723,732

【重要な会計方針】

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(子会社株式及び関連会社株式)

移動平均法による原価法によっております。

(その他有価証券)

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

(製品・商品)

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

(仕掛製作費)

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

3 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降取得の建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用し、取得価額が10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年で均等償却する方法を採用しております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物附属設備 6年～15年

工具、器具及び備品 4年～15年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)による定額法、のれんについては、5年による定額法によっております。

(長期前払費用)

定額法によっております。

(リース資産)

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

#### 4 引当金の計上基準

(貸倒引当金)

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案して回収不能見込額を計上しております。

#### 5 収益及び費用の計上基準

(ソフトウェアの請負開発及びカスタマイズ作業に係る収益の計上基準)

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められるものについては、工事進行基準を、その他の契約については検収基準を適用しております。なお、進捗度の見積りについては、あらかじめ契約上の成果物を作業工程単位に分割するとともに各作業工程の価値を決定し、決算日において完了した作業工程の価値が全作業工程に占める割合をもって作業進捗度とする方法を用いております。

#### 6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(消費税等の会計処理)

消費税及び地方消費税については税抜方式によっております。

##### 【表示方法の変更】

(損益計算書関係)

前事業年度において、独立掲記しておりました「営業外費用」の「為替差損」は、当事業年度においては、重要性がなくなったため「営業外費用」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外費用」の「為替差損」に表示していた12千円は、「その他」として組み替えております。

##### 【追加情報】

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

##### 【注記事項】

(損益計算書関係)

1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
受取利息	796千円	1,873千円



2 無効ユニット収入の内容

オンデマンドライセンスで販売したユニットは、お客様の使用期限を使用開始日から1年間としております。使用期限までに使用されなかったユニットの金額を無効ユニット収入として営業外収益に計上しております。

3 固定資産除却損の内容

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
工具、器具及び備品	303千円	164千円

4 組織統合関連費用の内容は、次のとおりであります。

特別損失の組織統合関連費用は、当社グループ内組織の融合効率化に向けた取組みとして実行される、事業拠点の移転統合に伴う固定資産の減損損失156千円、資産撤去廃棄費用822千円であります。なお、減損損失については、重要性が乏しいため注記を省略しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	21			21

当事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	21			21

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産 本社における社内利用複合機(工具、器具及び備品)であります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	前事業年度 (平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	4,265千円	2,630千円	1,635千円
合計	4,265千円	2,630千円	1,635千円

	当事業年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品			
合計			

(2) 未経過リース料期末残高相当額

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年以内	860千円	千円
1年超	794千円	千円
合計	1,654千円	千円

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	906千円	226千円
減価償却費相当額	853千円	213千円
支払利息相当額	16千円	3千円

(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

[次へ](#)

(有価証券関係)

前事業年度(平成23年3月31日)

子会社及び関連会社株式(貸借対照表計上額 関係会社株式34,050千円)は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難であると認められることから記載しておりません。

当事業年度(平成24年3月31日)

子会社及び関連会社株式(貸借対照表計上額 関係会社株式34,050千円)は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難であると認められることから記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>(1)流動資産</b>		
未払事業税	514千円	520千円
未払賞与	千円	254千円
組織統合関連費用	千円	387千円
貸倒引当金	211千円	千円
繰越欠損金	20,099千円	17,472千円
その他	392千円	431千円
評価性引当額	20,491千円	17,841千円
計	725千円	1,224千円
<b>(2)固定資産</b>		
貸倒引当金	859千円	804千円
投資有価証券	405千円	千円
評価性引当額	1,264千円	804千円
計	千円	千円
繰延税金資産合計	725千円	1,224千円

(繰延税金負債)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>固定負債</b>		
特別償却準備金	37千円	23千円
繰延税金負債合計	37千円	23千円
差引：繰延税金資産純額	687千円	1,201千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	-	40.5%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	-	219.3 "
住民税均等割等	-	145.3 "
株式報酬費用	-	415.2 "
評価性引当額の増減	-	968.4 "
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	41.2 "
その他	-	3.0 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	103.9%

(注) 前事業年度は、税引前当期純損失を計上しているため注記を省略しております。

3 . 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前事業年度の40.5%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは38.0%、平成27年4月1日以降のものについては35.6%にそれぞれ変更されております。

それによる繰延税金資産及び繰延税金負債の金額に対する影響額は軽微であります

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	53,811円88銭	53,844円51銭
1株当たり当期純利益金額又は 当期純損失金額( )	3,702円40銭	29円84銭
潜在株式調整後1株当たり当期 純利益金額	潜在株式調整後1株当たり当期純利益 金額については、潜在株式は存在する ものの1株当たり当期純損失であるた め記載しておりません。	潜在株式調整後1株当たり当期純利益 金額については、潜在株式は存在する ものの希薄化効果を有しないため記載 しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額( )の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額又は 当期純損失金額( )		
当期純利益又は当期純損失 ( )	49,325千円	397千円
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る当期純利益 又は当期純損失( )	49,325千円	397千円
期中平均株式数	13,322株	13,331株
希薄化効果を有しないため、潜在 株式調整後1株当たり当期純利益 金額の算定に含めなかった潜在 株式の概要	平成16年9月22日定時株主総会決議ス トック・オプション(平成13年改正旧 商法第280条ノ20及び平成13年改正旧 商法第280条ノ21の規定に基づく新株 予約権) 普通株式 91株 平成17年9月22日定時株主総会決議ス トック・オプション(平成13年改正旧 商法第280条ノ20及び平成13年改正旧 商法第280条ノ21の規定に基づく新株 予約権) 普通株式 39株 平成20年9月29日取締役会決議スト ック・オプション(会社法の規定に基 づく新株予約権) 普通株式 89株	平成17年9月22日定時株主総会決議ス トック・オプション(平成13年改正旧 商法第280条ノ20及び平成13年改正旧 商法第280条ノ21の規定に基づく新株 予約権) 普通株式 38株 平成20年9月29日取締役会決議スト ック・オプション(会社法の規定に基 づく新株予約権) 普通株式 81株 平成22年6月17日取締役会決議スト ック・オプション(会社法の規定に基 づく新株予約権) 普通株式 176株

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【その他】

種類及び銘柄			投資口数等(千口)	貸借対照表計上額 (千円)
有価証券	その他 有価証券	公社債投資信託の受益証券 (りそなMMF)	10,124	10,124
計			10,124	10,124

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高(千円)
有形固定資産							
建物	25,524		156 (156)	25,368	19,021	1,565	6,346
工具、器具 及び備品	118,965	4,223	16,087	107,101	94,845	8,485	12,255
リース資産		3,900		3,900	520	520	3,380
有形固定資産計	144,490	8,123	16,244 (156)	136,369	114,387	10,570	21,982
無形固定資産							
のれん	41,396			41,396	41,396	5,519	
ソフトウェア	97,680		8,506	89,173	66,674	9,956	22,499
その他	3,708	87	1,463	2,331	962	205	1,369
無形固定資産計	142,784	87	9,970	132,901	109,032	15,681	23,869
長期前払費用	998	492	802	668	172	375	516

(注) 1. 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。

2. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

工具、器具及び備品：コンテンツサーバ4,223千円

リース資産：社内利用複合機 3,900千円

その他：商標権更新87千円

3. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物：レイアウト変更に伴うミーティングブース減損156千円

工具、器具及び備品：破損によるコンピュータ除却16,087千円

## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	2,643			6	2,116

(注) 当期減少額(その他)の内容は洗替による戻入額であります。

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

## a 資産の部

## イ 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	29
預金	
普通預金	278,161
定期預金	148,205
別段預金	271
小計	426,638
合計	426,668

## ロ 売掛金

## 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
オムロン フィールドエンジニアリング(株)	16,968
(株)日立システムズ	15,630
エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジー(株)	14,136
(株)日本電気	9,141
日本オラクル(株)	6,597
その他	37,646
合計	100,120

## 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高(千円)	当期発生高(千円)	当期回収高(千円)	当期末残高(千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	$\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{366}$
96,121	656,071	652,072	100,120	86.6	54.7

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

## ハ 商品及び製品

区分	金額(千円)
受験チケット	1,399
E-ServerMini	1,060
書籍	101
合計	2,561

## ニ 仕掛製作費

区分	金額(千円)
iStudy Enterprice Serverインプリメーション作業	1,117
合計	1,117

## ホ 関係会社短期貸付金

相手先	金額(千円)
SEホールディングス・アンド・インキュベーションズ(株)	150,000
合計	150,000

## ヘ 敷金及び保証金

区分	金額(千円)
NBF東銀座スクエア(本社)	41,350
合計	41,350

## b 負債の部

## イ 買掛金

相手先	金額(千円)
日本オラクル(株)	3,507
(株)S E プラス	1,709
(株)プレストストローク	1,340
ミラクル・リナックス(株)	828
(株)翔泳社	821
その他	5,864
合計	14,072



## □ 前受収益

相手先	金額(千円)
トッパンエムアンドアイ(株)	18,455
(株)NTTB A東日本	8,912
一般社団法人日本医療情報学会	6,090
セルジーン(株)	3,874
(株)みずほコーポレート銀行	3,870
その他	12,630
合計	53,833

## (3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	事業年度末日の翌日から3ヶ月以内
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告としております。但し、電子公告を行うことができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告いたします。なお、電子公告は、当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 <a href="http://systech-i.co.jp/">http://systech-i.co.jp/</a>
株主に対する特典	毎年3月31日及び9月30日現在の株主及び実質株主に対し年2回、一律1枚の優待券（学習支援ソフトウェア「iStudyシリーズ」の50%購入割引券）を贈呈します。

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類、有価証券報告書の確認書

事業年度 第15期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)平成23年6月20日関東財務局長に提出

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成23年6月20日関東財務局長に提出

#### (3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書

第16期第1四半期(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日) 平成23年8月11日関東財務局長に提出

第16期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日) 平成23年11月11日関東財務局長に提出

第16期第3四半期(自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日) 平成24年2月10日関東財務局長に提出

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年6月20日

株式会社 システム・テクノロジー・アイ  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 定 留 尚 之  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 唐 澤 正 幸  
業務執行社員

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社システム・テクノロジー・アイの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

#### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社システム・テクノロジー・アイ及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社システム・テクノロジー・アイの平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社システム・テクノロジー・アイが平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
  - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成24年 6月20日

株式会社 システム・テクノロジー・アイ  
取締役 会 御 中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 定 留 尚 之  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 唐 澤 正 幸  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社システム・テクノロジー・アイの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第16期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社システム・テクノロジー・アイの平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。